

No.41 「ゼロを1年待つより1%で半年早く始まる方がいい——習い事代がかかり始めた子2人持つ36歳」

対象者プロフィール

氏名	荻野 浩一
居住地	埼玉県さいたま市
年齢・性別	36歳・男性
職業	会社員（不動産営業）
家族構成	妻（パート）・子2人（7歳・4歳）
政治関心/知識	中／低

3分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「ゼロを1年待つより、半年早く始まる方が子どものいる今の家計には助かります」と述べ、「1%で半年早く始まるなら、そちらの方がいい」と語った。食費を月8～9万円と把握しており、「月5,000～6,000円変わる」と計算した。

推論：7歳・4歳という子どもの習い事が始まる時期が「今の家計」という動機の根拠になっている。食費節約の使い道が「習い事代」という具体的な出費として示されており、ゼロより半年早い1%という選択を実利から判断した。

FD：荻野にとって消費税1%案への賛成は、習い事代が増えてきた子育て家庭として今すぐ食費が少し下がってほしいという切実さから来ている。ゼロへの残念感はあるが、待つより早い1%という実利判断が上回った。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月8～9万円の食費で、1%になれば年間6～7万円変わる」と述べた。「子どもの習い事代が増えてきているので、食費が少し下がれば助かります」と続けた。

推論：食費と習い事代を同じ文脈で語ることで、食費節約が習い事費用への振り替えとして具体的に位置づけられている。妻が日々の買い物をしており、物価変化の詳細は妻の方が把握している。

FD：荻野における消費税は「習い事代という新しい出費と並べて語られる家計課題」だ。食費節約の恩恵が子どもの活動費という使い道と直接結びついており、家計全体の中に消費税問題が埋め込まれている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「子育て支援がどうなるかは気になります。習い事の費用とか教育費とか、子どもが大きくなるにつれて出費が増えてくるので」と述べた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への好意的受け入れが基調だが、子どもの成長に伴う将来の出費増への関心も並走している。消費税への賛成と子育て支援への要求が並列している。

FD：荻野の高市評価は「食費が下がる方向は良い、子育て支援の充実も求める」という子育て世帯の父親としての複層評価だ。今すぐの食費節約と将来の教育費増加の両方への視点が共存している。

【全体総括】

根拠：「ゼロを1年待つより1%で半年早く始まる方が、習い事代がかかり始めた今の家計には助かる」と締めた。「子どもが7歳と4歳で習い事が増えてきている今の時期」という言葉が評価の時間的背景を示している。

推論：荻野を貫く行動原理は「7歳・4歳の子どもの習い事代が増えてきている今の時期に、食費節約の恩恵を習い事費用への振り替えとして捉え、ゼロより半年早い1%を今の家計に最も良い選択として支持する」だ。

FD：荻野浩一を特徴づけるのは「習い事代が増えてきた7歳・4歳の子育て家庭として、食費節約の恩恵を子どもの活動費への振り替えとして具体的に語り、ゼロより半年早い1%を今の時期に最も合う選択として支持した36歳」だ。「習い事代がかかり始めた今の家計には助かる」という言葉に、子育てのステージが変わる時期の家計感覚が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

荻野浩一：不動産会社で営業をしています。妻と子どもが二人、7歳と4歳です。さいたまに住んでいます。子どもの習い事が増えてきて、家計が忙しくなっています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

荻野浩一：知っています。高市総理が食べ物の消費税をゼロにするとか、最近は1%案が出ているという話ですよ。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

荻野浩一：食費は月8~9万円くらいかかっています。7歳と4歳の子どもがいて食費がかかりますし、物価が上がって前より出費が増えています。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

荻野浩一：良いと思います。家族 4 人で月 8～9 万円の食費があるので、8%から 1%になれば月 5,000～6,000 円くらい変わります。子どもの習い事代とかに回せますから。

M：なぜそう思いますか？

荻野浩一：7 歳と 4 歳の子どもがいて食費がかかりますし、習い事の費用も出てきています。食費が少し下がれば、その分を子どもたちのために使えます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

荻野浩一：覚えています。ゼロになったら良いなと思っていました。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

荻野浩一：少し残念ですが、驚かなかったです。何か理由があるんだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

荻野浩一：評価します。8%より断然いいです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

荻野浩一：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

荻野浩一：なるほど、レジのシステムの問題なんですか。それは知りませんでした。確かに全国のスーパーを一斉に変えるのは大変ですね。家計として、1%で半年早く始まるなら、そちらの方がいいです。ゼロを 1 年待つより、半年早く始まる方が子どものいる今の家計には助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

荻野浩一：そうですね。早い方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

荻野浩一：早く確定してほしいです。家計の計画が立てやすくなるので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

荻野浩一：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。毎日の買い物で気にしています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

荻野浩一：月 8～9 万円かかっています。1%になれば年間で 6～7 万円変わりますよね。子どもの習い事代が増えてきているので、食費が少し下がれば助かります。

M：その情報はどこから？

荻野浩一：ニュースで見たり、妻から聞いたりです。妻の方が日々の買い物をしているので、物価の変化を詳しく知っています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

荻野浩一：物価が上がっているのは実感しています。スーパーで同じものが前より高くなっているのがわかりますし、妻から「食費が増えた」と言われます。

M：それについてはどう思いますか？

荻野浩一：消費税が少しでも下がれば助かります。子どもの習い事代とかが増えてきている時期に、食費が下がれば家計に余裕ができます。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

荻野浩一：就任前から積極的な感じがしていました。食料品消費税の話は方向性として良いと思います。

M：7 歳と 4 歳のお子さんを育てる父親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

荻野浩一：子育て支援がどうなるかは気になります。習い事の費用とか教育費とか、子どもが大きくなるにつれて出費が増えてくるので。食費の消費税が下がるのはありがたいですが、子育て支援全体も充実してほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

荻野浩一：方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

荻野浩一：「食費が少し下がると家計として助かります。1%案で早く確定してください。子育て支援も合わせてお願いします」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

荻野浩一：7 歳と 4 歳の子どもを育てていて、習い事や教育費がかかってきています。食費が少し下がれば、その分を子どものために使えます。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

荻野浩一：します。妻も「食費が下がれば助かる」と言っています。家計については二人で話し合っています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

荻野浩一：「ゼロを1年待つより1%で半年早く始まる方が、習い事代がかかり始めた今の家計には助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

荻野浩一：子どもが7歳と4歳で習い事が増えてきている今の時期に、食費が少しでも早く下がれば助かります。システムの問題で半年早く始まるなら1%の方が良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

荻野浩一：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.42 「1%案の技術的理由はわかった、地方財政への影響もセットで説明を」——地方消費税の配分を日々扱う 44 歳市役所職員

対象者プロフィール

氏名	山内 浩二
居住地	埼玉県越谷市
年齢・性別	44 歳・男性
職業	市役所職員（財政担当）
家族構成	妻（専業主婦）・子 3 人（14 歳・11 歳・8 歳）
政治関心/知識	高／高

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「財政担当として、地方消費税の収入が減った場合の補填がどうなるかは自治体として重要な問題なので」と述べた。レジシステムの説明に「財政的な理由だと思っていたので正直意外でした。財政問題ではなく技術的な制約なら、1%で半年早く始まる方が合理的だと思います」と応じた。

推論：「財政問題ではないとわかって安心した」という発言が、消費税削減に対する最大の懸念が地方財政への影響だったことを示している。技術的な制約という説明に対し、財政問題でないことへの安堵が先行し、その後に合理性の評価が続く構造がある。

FD：山内にとって消費税 1%案への賛成は「生活者として家族の食費が助かる」と「財政問題ではないとわかって安心した」という二層の納得から成っている。地方消費税の収入減への懸念が最大の関心事として並走しており、技術的な理由の説明がその懸念を一定程度緩和した。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税収入のうち地方消費税として地方に配分される割合や、その仕組みまで把握しています」と述べた。「妻から『食材が高くなった』という話をよく聞きます」と語った。

推論：消費税の制度・仕組みへの知識は高いレベルにある。ただし家庭の食費は妻任せで、生活者としての実感は妻の言葉を通して伝わる間接的なものだ。財政担当として消費税を統計・収入として見る視点と、妻の言葉から感じる家計への影響が、並走している。

FD：山内における消費税は「制度・統計として把握する財政担当の視点」と「妻の言葉から感じる生活者の実感」という二つの層が重なっている。消費税を深く知りながら、家庭での食費の実感妻を通じて間接的に感じているという構造がある。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品 1%案の技術的な理由はわかりました。地方財政への影響と補填もセットで説明してください」がメッセージだと答えた。

推論：「技術的な理由はわかった」という前半と「地方財政の手当てをセットで」という後半が、生活者と財政担当の二つの立場を象徴している。高市への評価は一定の賛成と、地方財政という別の問いへの誘導が同時に起きている。

FD：山内の高市評価は「技術的な理由はわかった、地方財政の補填はセットで」という二層の要求だ。生活者としての賛成と財政担当としての懸念が、それぞれ別の要求を生んでいる。

【全体総括】

根拠：「技術的な理由はわかった、地方財政の手当てもセットでお願いしたい」と締めた。「財政問題ではないとわかって少し安心しました」と述べた。

推論：山内を貫く行動原理は「消費税議論を生活者と財政担当の両方の立場から評価し、技術的な理由への納得と地方財政への懸念が並走している」だ。「財政問題でない」とわかった安堵が印象的であり、地方財政への影響が最大の懸念事項であったことがわかる。

FD：山内浩二を特徴づけるのは「地方消費税の仕組みを熟知する市役所財政担当として、1%案の技術的理由に納得しながら地方財政への影響の補填を求める 44 歳」だ。「財政問題ではないとわかって安心した」という言葉に、財政担当として消費税削減の財源への懸念がいかに大きかったかが凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

山内浩二：市役所の財政部門で働いています。地方消費税の配分や予算管理をやっているのですが、消費税の話は仕事と直結しています。妻が専業主婦で子どもが三人いるので、家計は私の収入だけです。物価が上がっているのは家計にも響いています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

山内浩二：もちろん知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を出していたのも、最近 1%案が浮上しているのも把握しています。仕事として影響を把握しておく必要があるのです。

M：知っていることを教えてください。

山内浩二：ゼロという公約が出て、それが 1%案になってきているということですね。地方自治体の財政担当として、食料品消費税が変わると地方消費税の収入にも影響するので、この議論は気になっています。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

山内浩二：妻と子ども三人の五人家族で、食費は月 9～10 万円くらいかかっています。消費税が 1%でも下がれば助かりますが、仕事の立場としては財源の問題も気になります。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

山内浩二：家計としては助かると思いますが、財政担当として「地方への影響はどうなるんだろう」という視点も出てきます。消費税が下がると地方消費税の収入も減るので。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

山内浩二：生活者として家族の食費が下がるのは良いことです。ただ財政担当として、地方への影響も考えてほしいという気持ちがあります。

M：なぜそう思いますか？

山内浩二：妻が専業主婦なので家計は私一人の収入で、食費が下がれば助かります。一方で、地方消費税が減ると市の財政に影響するので、その補填がどうなるかも気になります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

山内浩二：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

山内浩二：驚かないですね。ゼロは財政的にも制度的にも難しいと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

山内浩二：方向性は評価しますが、財源と地方への影響の手当てとセットで見たいと思っています。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

山内浩二：知りたいです。財政的な理由かと思っていましたが。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

山内浩二：知らないです。財源の問題かと予想していました。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

山内浩二：システムの問題なんですね。それは正直意外でした。財政的な理由だと思っていたので。ただ、市役所でもシステム改修の大変さは経験していますし、全国規模となれば確かに時間がかかります。財政問題ではなく技術的な制約なら、1%で半年早く始まる方が合理的だと思います。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

山内浩二：理由がわかれば納得できます。ただ地方への財政的な影響の手当ては別途必要です。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

山内浩二：早く決めてほしいですね。地方の予算編成にも影響するので、早く決まると助かります。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

山内浩二：消費税の仕組みは仕事で熟知しています。食料品が8%で他が10%というのはもちろん、消費税収入のうち地方消費税として地方に配分される割合や、その仕組みまで把握しています。ただ今日は家庭の食費の話ですよ。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

山内浩二：五人家族で食費は月9～10万円です。妻が家計を管理していて、物価が上がったと言っています。消費税が1%でも下がれば年間で1万円以上変わるので、それは助かります。

M：その情報はどこから？

山内浩二：妻から聞いています。仕事では消費税の統計や収入を扱っていますが、家庭の食費は妻任せです。

M：何か実感として感じているものはありますか？

山内浩二：物価上昇は家計でも感じています。妻から「食材が高くなった」という話をよく聞きます。

M：それについてはどう思いますか？

山内浩二：消費税が下がれば少し助かりますが、物価上昇全体の問題も大きい。財政担当として、消費税を下げることで財源が減り、他の行政サービスに影響しないかが気になります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

山内浩二：就任前は経済・安全保障に強い印象でした。消費税ゼロの公約は「大きく出たな」と思いましたが、財政的に無理があると思っていました。1%案になったのは現実的な修正という感じです。

M：市役所の財政担当のお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

山内浩二：地方への財政的な影響と補填の手当てが一番気になります。消費税が下がると地方消費税の収入が減るので、その分をどう補填するのかが明確になっていない。食料品消費税の話は生活者として助かりますが、地方財政への影響も忘れないでほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

山内浩二：今日のシステムの話聞いて、1%案の理由は技術的には納得しました。ただ地方財政への影響の手当てが明確でないのは気になります。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

山内浩二：「食料品 1%案の技術的な理由はわかりました。地方財政への影響と補填もセットで説明してください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

山内浩二：食料品の消費税が下がるのは家族として助かりますし、生活者として賛成です。ただ市役所の財政担当として、地方消費税の収入が減った場合の補填がどうなるかは自治体として重要な問題なので。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

山内浩二：します。妻は「食費が下がれば助かるね」と言っています。私が地方財政の話をする「難しいことはわからないけど、下がれば助かる」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

山内浩二：「技術的な理由はわかった、地方財政の手当てもセットでお願いしたい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

山内浩二：レジシステムの話で技術的な制約はわかりました。財政問題ではないとわかって少し安心しましたが、地方への影響の補填は別途考えてほしい。家族として食費が下がるのは助かりますし、早く始まってほしいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

山内浩二：今日初めてレジシステムの理由を聞きました。財政的な理由だと思っていたので意外でしたが、技術的な制約なら納得できます。食料品消費税の議論は生活者として歓迎しますが、地方財政への影響と補填の議論も合わせて進めてほしいです。

M：ありがとうございました。

No.43 「生活者として 1%でも早く始まってほしい」——農業経営の苦しさを抱えながら家族 5 人の食費を担う 30 歳農家

対象者プロフィール

氏名	高橋 一郎
居住地	埼玉県川越市
年齢・性別	30 歳・男性
職業	農業（野菜・米）
家族構成	妻・子 1 人（3 歳）・両親
政治関心/知識	中／低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「農家として複雑な気持ちもあります。食料品の値段が下がると農業が苦しくなるのでは、という心配も.....ただ消費税の話と農産物の価格は別の話ですよ」と述べた。レジシステムの説明に「農産物の流通でも、価格変更があるとシステムの対応が必要になるのでわかります。1%で半年早く始まるなら、その方が良いですね」と応じた。

推論：「農家として複雑な気持ち」という発言から、食料品消費税の削減を生産者目線と消費者目線で同時に見ていることがわかる。しかし「消費税の話と農産物の価格は別の話ですよ」と自分で整理し、生活者としての評価に移行している。農産物流通のシステム経験からレジシステムの理由に即共感している。

FD：高橋にとって消費税 1%案への賛成は「農家としての複雑な気持ちを持ちながら、生活者として食費が下がる方を選んだ」ものだ。農業収入が不安定で世帯年収が低い現実が、生活者視点での賛成を後押ししている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「農業の経営では肥料や農機具を買う時に消費税を払いますし、農産物を売る時の話もあるので、消費税は気にしています」と述べた。「野菜は自家製なので、食費の中で消費税がかかるのは加工品や調味料が中心です」と語った。

推論：消費税への関わり方が農業経営と家庭の二重構造になっている。自家製野菜で食費の一部が相殺されているため、食料品消費税の当事者感是他の家庭より薄い。農業の経営問題と生活の問題を分けて話す整理力がある。

FD：高橋における消費税は「農業経営でも家庭でも関わる問題だが、生産者と消費者の立場が混在している」。自家製野菜が食費の一部を補う特殊な家庭事情があり、食料品消費税の削減効果は他の家庭より限定的だ。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の消費税 1%、早く始めてください。農業の経営支援もお願いします」がメッセージだと答えた。

推論：消費税 1%案と農業支援という二つの要求が並立している。「食費が下がれば助かる」という生活者としての賛成に、「農業が続かなければ食料品自体が作れなくなる」という生産者としての問題意識が加わっている。

FD：高橋の高市評価は「食料品 1%は生活者として歓迎、農業の経営支援も同時に進めてほしい」という二重の要求だ。生産者と消費者の両立場から消費税政策を見ており、食料品の安さと農業の持続可能性という二つの価値の間にいる。

【全体総括】

根拠：「生活者として 1%でも早く始まってほしい」と締めた。「農業の経営問題は別ですが、家庭の食費として早く下がってほしい」と述べた。

推論：高橋を貫く行動原理は「農業経営の問題と家庭の食費の問題を分けて考え、生活者としての賛成に落ち着く」だ。農家として食料品の価格に複雑な関係を持ちながら、生活者としての立場を優先して評価している。世帯年収の低さが生活者視点の切実さを生んでいる。

FD：高橋一郎を特徴づけるのは「農業経営の苦しさを抱えながら、食料品消費税議論を生産者と消費者の二つの目を見て、最終的に生活者として 1%案に賛成する 30 歳農家」だ。「消費税の話と農産物の価格は別の話ですよ」という自己整理の言葉に、二つの立場を分けて考える冷静さが表れている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

高橋一郎：家族で農業をやっています。野菜と米を作っていて、両親と妻と 3 歳の子どもと一緒に暮らしています。農業は天候に左右されますし、最近は肥料や農機具の値段が上がっていて、経営が厳しいですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

高橋一郎：聞いてはいます。食料品の消費税が下がるかもしれないという話ですよ。農家の立場から気になります。

M：知っていることを教えてください。

高橋一郎：高市総理がゼロにするとと言っていたのが、1%案になってきているということですかね。農家としては、食料品の価格は流通や小売の問題もあるので、消費税だけの話ではないと思っていますが。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

高橋一郎：自分で野菜を作っているんで、野菜は買わなくて済んでいます。ただ米や加工品は買いますし、妻も食費はかかると言っています。家族5人（両親含む）なので、食費は月8～9万円くらいでしょうか。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

高橋一郎：食費が下がれば助かりますが、農家として複雑な気持ちもあります。食料品の値段が下がると農業が苦しくなるのでは、という心配も.....ただ消費税の話と農産物の価格は別の話ですよ。

M：そうですね、今日は家庭の食費という観点でお聞きしています。食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、生活者としてどう思いますか？

高橋一郎：生活者として見れば、1%でも下がれば助かります。子どもも小さいですし、家族が多いので。

M：なぜそう思いますか？

高橋一郎：世帯年収がそれほど高くないので、食費が少しでも下がれば助かります。農業の収入は安定しないので。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

高橋一郎：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

高橋一郎：まあ、そうなるかなという感じです。大きな公約が変わることはよくあるので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

高橋一郎：生活者として評価します。

M：0にできない理由について知りたいですか？

高橋一郎：知りたいです。

M：なぜ1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

高橋一郎：知らないです。財政的な問題かと思っていました。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約1年かかるためです。0%だと1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

高橋一郎：ああ、レジのシステムの話なんですね。農産物の流通でも、価格変更があるとシステムの対応が必要になるのでわかります。1%で半年早く始まるなら、その方が良いですね。生活者として早い方が助かりますし。

M：半年早いなら、1%になる方がよいということですか？

高橋一郎：そうです。早い方がよいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

高橋一郎：早く決めてほしいですね。農業の経営も計画を立てるので、いろんなことが早く決まると助かります。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

高橋一郎：食料品が8%で他が10%というのは知っています。農業の経営では肥料や農機具を買う時に消費税を払いますし、農産物を売る時の話もあるので、消費税は気にしています。家庭の食費という観点では、自分で野菜を作っているので実感が少し違うかもしれませんが。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

高橋一郎：野菜は自家製なので、食費の中で消費税がかかるのは加工品や調味料が中心です。ただ両親も含めた5人家族なので、食費全体はけっこうかかります。消費税が1%下がれば、それなりに助かります。

M：その情報はどこから？

高橋一郎：妻から聞いています。家計の管理は妻がやっているのです。農業の経営はJAとか農業関係の情報から。

M：何か実感として感じているものはありますか？

高橋一郎：肥料や農機具の値段が上がっているのは実感しています。生活用品も高くなっているのを妻が言っています。

M：それについてはどう思いますか？

高橋一郎：農業の経営的には厳しいですね。消費税が下がれば生活は少し楽になりますが、農業の経営問題は別の問題として残ります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

高橋一郎：就任前は正直あまり知らなかったんですが、農業支援の政策がどうなるかは気になっています。食料品の消費税ゼロの公約は「農家のことも考えてくれているのかな」と思いましたが、農産物の生産者への影響という意味では別の問題です。

M：農業をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

高橋一郎：農業の後継者問題や経営支援が一番気になります。食料品の消費税が下がることは生活者として助かりますが、農業が続かなければ食料品自体が作れなくなる。そちらの支援も進めてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

高橋一郎：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由はわかりました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

高橋一郎：「食料品の消費税 1%、早く始めてください。農業の経営支援もお願いします」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

高橋一郎：生活者として食費が下がれば助かりますし、農家として農業の経営支援も必要です。消費税の話と農業の話は別ですが、両方進めてほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

高橋一郎：します。妻は「食費が下がれば助かる」と言っていました。農業の消費税の話は複雑なので、家では食費の話が中心です。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

高橋一郎：「生活者として 1%でも早く始まってほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

高橋一郎：レジシステムの理由を聞いて、1%で半年早い方が現実的だとわかりました。農業の経営問題は別ですが、家庭の食費として早く下がってほしいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

高橋一郎：消費税の話は食料品の生産者と消費者で見え方が違いますが、今日は生活者として考えました。食費が少しでも下がれば助かります。農業の支援も合わせて進めてほしいですが。

M：ありがとうございました。

No.44 「収入が多くないから 1%でも早く食費が下がってくれる方がいい——自営業で家計が厳しい 38 歳」

対象者プロフィール

氏名	佐藤 勇人
居住地	埼玉県所沢市
年齢・性別	38 歳・男性
職業	歯科技工士（自営）
家族構成	妻（パート）・子 2 人（9 歳・6 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「今の家計状況だと、早ければ早い方がいい」と述べ、「1%で半年早く始まる方が助かります」と語った。「うちは収入がそんなに多くないので、食費が少しでも下がると家計が楽になります」と続けた。

推論：世帯年収約 480 万という家計の余裕のなさが「早ければ早い方が良い」という切実さの根拠になっている。ゼロへの残念感はあるが、早く始まる 1%の実利的な選択に躊躇がない。仕事の景気の悪さが物価上昇への打撃感を増幅させている。

FD：佐藤にとって消費税 1%案への賛成は、収入が安定しない自営業家庭として物価上昇の打撃が大きい今の状況において、少しでも早く食費が下がってほしいという切実な生活者の判断だ。ゼロより半年早い 1%という選択は「早い方がいい」という迷いのない評価として出ている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月 7～8 万円の食費で、1%になれば年間 5,000～6,000 円の節約。うちは収入が多くないので、その節約も大きいです」と述べた。「仕事の景気もあまり良くないので、物価上昇は家計に影響しています」と続けた。

推論：節約額の絶対値は小さいが「収入が多くない」という状況から相対的な重みが大い。仕事の景気と物価上昇の両方が家計に影響しており、消費税節約への切実感が他の回答者より強い。

FD：佐藤における消費税は「仕事の景気が悪く物価が上がっている中で、少しの節約でも大きい家計の切実さ」として語られる。「収入が多くないので」という前置きが、消費税節約の相対的な重みを示している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「自営業で収入が不安定なので、子どもが病気した時の医療費とか、将来の学費とか、心配があります」と述べた。「自営業者への支援も充実してほしいです」と続けた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への歓迎が基調だが、自営業者として収入の不安定さという固有のリスクが並走している。医療費・学費という子育て家庭の普遍的な心配が、自営業の不安定さと重なって出てくる。

FD：佐藤の高市評価は「食費が下がるのは助かる、自営業で働く家庭への支援も求める」という収入が不安定な自営業の父親としての切実な要求だ。消費税への賛成と自営業支援への要求が、家計の厳しさという共通の底から来ている。

【全体総括】

根拠：「収入が多くないから、1%でも早く食費が下がってくれる方が助かる——ゼロを待つより半年早い方がいい」と締めた。「家計がそれほど余裕があるわけではない」という前置きが一貫した動機を示している。

推論：佐藤を貫く行動原理は「収入が安定しない自営業家庭として物価上昇が直撃する中で、少しでも早く食費が下がることへの切実な動機を持ち、半年早い1%を躊躇なく支持する」だ。

FD：佐藤勇人を特徴づけるのは「仕事の景気が悪く収入が不安定な自営業の父親として、物価上昇が家計に直接響く状況の中で、少額でも意味のある消費税節約を切実に求め、1%で半年早く始まる方を迷わず支持した38歳」だ。「収入が多くないので、その節約も大きいです」という言葉に、消費税節約の相対的な重みが凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話いただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

佐藤勇人：歯科技工の仕事を自分でやっています。妻と子どもが二人、9歳と6歳です。所沢に住んでいます。仕事はそれほど景気が良くないですし、物価が上がって家計が厳しくなっています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

佐藤勇人：聞いています。食べ物の消費税がゼロになるとか、最近は1%になるとか言っていますよね。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

佐藤勇人：食費は月7～8万円くらいかかっています。9歳と6歳の子どもがいて、子どもが食べるようになってきたので前より増えています。消費税が下がれば本当に助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

佐藤勇人：ありがたいです。うちは収入がそんなに多くないので、食費が少しでも下がると家計が楽になります。

M：「助かる」というのは、毎月の家計にゆとりができるという意味ですか？

佐藤勇人：そうです。月 7～8 万円の食費で 8%から 1%になれば月 5,000 円以上変わります。子どもの習い事代とか、家計のいろんな出費に充てられます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

佐藤勇人：ぼんやり覚えています。ゼロになったら良かったと思います。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

佐藤勇人：残念だなとは思いましたが、驚かなかったです。ゼロは難しいんだろうなと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

佐藤勇人：評価します。8%より全然いいです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

佐藤勇人：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

佐藤勇人：そういう理由なんですね。全国のスーパーのレジを変えるのは確かに大変そうです。家計として、1%で半年早く始まる方が助かります。今の家計状況だと、早ければ早い方がいいです。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

佐藤勇人：そうですね。早く始まってほしいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

佐藤勇人：早く決まってほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

佐藤勇人：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。家計として、食費にかかる消費税が下がれば助かります。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

佐藤勇人：月 7～8 万円かかっています。1%になれば年間 5,000～6,000 円の節約です。うちは収入が多くないので、その節約も大きいです。

M：その情報はどこから？

佐藤勇人：ニュースで見ました。妻から聞くこともあります。

M：何か実感として感じているものはありますか？

佐藤勇人：物価が上がっているのは実感しています。スーパーで同じものが前より高くなっているのがわかります。仕事の景気もあまり良くないので、物価上昇は家計に響いています。

M：それについてはどう思いますか？

佐藤勇人：消費税が少しでも下がれば助かります。家計として物価上昇はきついです。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

佐藤勇人：就任してから「女性の総理が生まれた」という印象でした。食料品の消費税の話は家計として助かります。

M：9 歳と 6 歳のお子さんを育てる父親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

佐藤勇人：子どもの教育費や医療費がどうなるかは気になります。自営業で収入が不安定なので、子どもが病氣した時の医療費とか、将来の学費とか、心配があります。食費が少し下がるのは助かりますが、そういった支援も充実してほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

佐藤勇人：方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

佐藤勇人：「食費が少し下がると本当に助かります。1%でも早く始めてください。自営業で働く家庭への支援も充実してほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

佐藤勇人：自営業で収入が安定しないので、物価が上がると家計への打撃が大きいです。食費が少しでも下がれば助かります。自営業者への支援も充実してほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

佐藤勇人：します。妻も「食費が下がれば助かる」と言っています。家計のことはよく二人で話します。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

佐藤勇人：「収入が多くないから、1%でも早く食費が下がってくれる方が助かる——ゼロを待つより半年早い方がいい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

佐藤勇人：家計がそれほど余裕があるわけではないので、食費が少しでも早く下がれば助かります。システムの問題で半年早いなら1%の方が良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

佐藤勇人：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.45 消費税より、仕事をくれーリストラされた 48 歳が、ゼロか 1%かの議論に感じる空虚さ

対象者プロフィール

氏名	藤田 泰造
居住地	埼玉県熊谷市
年齢・性別	48 歳・男性
職業	元会社員・現在失業中
世帯年収	約 250 万
家族構成	妻（パート）・子 2 人（19 歳・17 歳）
政治関心/知識	高／低

3 分ブリーフィング

【1. 導入】

根拠：「最初は『本当にやるのか？』と思った。でも、どうせ何か理由つけてできないって言うんだろうなとも思っていた」と、期待と不信を同時に語った。

推論：藤田の政治不信は抽象的な感情ではなく、「期待して裏切られてきた」という経験の累積から形成されている。48 年間の生活者経験が「最初から信じない」という防衛的な構えを作っている。

FD：消費税ゼロ公約への反応は「期待半分・不信半分」の初期値から始まった。この構えはリストラ以前から存在するが、失業という現実がその不信をより鋭くしている。

【2. Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「1%でも助かるのは確か。でも『ゼロって言ってたのに』という気持ちは絶対に残る」と述べた。同時に「消費税がどうこうより、仕事が見つかるかどうかの方が 100 倍大事」と優先順位を明確に語った。

推論：藤田は 1%案を「現実として受け入れる」が、それは納得ではなく諦めの受容だ。消費税の議論そのものが「自分の問題の外側にある話」として相対化されており、ゼロか 1%かの争点は彼の切実さの順位において下位に置かれている。

FD：消費税への賛否を語りながら、「それより仕事が先だ」という軸が常に上位にある。政策議論への怒りは「自分が見えていない」という疎外感から来ており、消費税の数字の問題ではなく、誰のための政治かという問いへの怒りだ。

【3. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「今みたいに失業して収入がほとんどない状態でも、買い物したら8%取られる。これはおかしくないか」と語った。また消費税と物価値上がりの混同を自力で解消していたが、「政府がちゃんと説明してこなかった」と指摘した。

推論：消費税の逆進性を「知識」ではなく「今の自分の体感」として語っている。失業という経験が、制度の不公平さをリアルな痛みとして可視化した。社会保障財源としての消費税についても、「取られてる実感はあるが、戻ってくる実感が無い」という非対称感が強い。

FD：消費税への批判は知識的なものではなく、生活の現実から生まれた怒りだ。「稼いでなくても取られる」という逆進性の体感が核心にあり、社会保障の受益実感のなさがそれを補強している。中高年の再就職支援という具体的な要求が出たことも、消費税論議の「的外れ感」を示している。

【4. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「消費税ゼロを掲げてたから少し注目した」と述べたが、現在は「追う余裕がない」。メッセージは「48歳が職を失ったら、どうやって生きていけばいいんですか？」。

推論：高市への評価軸は消費税政策ではなく「中高年の雇用問題を見ているか」に移行している。「若者の就職・女性の活躍は言うが、中年男性は後回し」という疎外感が明確にある。説明なき公約変更への批判も、「方向性より姿勢の問題」として語られた。

FD：高市への関心は就任時に一瞬あったが、自身の失業問題の深刻化とともに政治全体が「遠い話」になっている。メッセージが消費税ではなく雇用問題になったことが、このパネルの本質を示している。

【全体総括】

根拠：締めの一言は「消費税より、仕事をくれ」。「消費税が1%になっても0%になっても、収入がゼロなら根本は変わらない」と語った。

推論：藤田にとって消費税の議論は「自分の問題の周辺にある話」だ。1%か0%かという争点は理解しているが、それが解決しても自分の根本的な問題は変わらない。政治への怒りは「見えていない」という疎外感であり、数字や制度の話ではない。

FD：消費税議論の枠組み自体が、このパネルには狭すぎる。食費の節約より雇用・再就職支援という要求が核心にあり、消費税ゼロか1%かという争点は「ある」が優先度が低い。「疲れてるんでしょうね、色々と」という妻への言及が、このパネルの現在地を最も端的に示している。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：藤田さん、今日はお時間をいただきありがとうございます。今日は正解のない話をしますので、思ったことをそのままお話しください。最近、食料品の消費税についての議論が出ていますが、ご存知でしたか？

藤田泰造：知ってますよ。ゼロにするって言ってたやつでしょ。高市がそれを公約にして総理になったんじゃないですか。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

藤田泰造：最初は「本当にやるのか？」って思いましたよ。今まで消費税って上がるばかりだったじゃないですか。5%が8%になって、10%になって。下げるって言う政治家が出てきたのは珍しいなって。でも……まあ、どうせ何か理由つけてできないって言うんだろうなとも思ってました。

M：「どうせできない」と思った理由は？

藤田泰造：経験ですよ。政治家って選挙前にはいいこと言うじゃないですか。でもなったら急に「財源が」とか「制度が」とか言い訳が出てくる。私もう48で、そういうのを何度も見てきてる。期待した分だけ裏切られてきたから、最初から信じないようにしてるんです。

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

藤田泰造：1%……ゼロって言ってたのに1%ですか。まあ、そういうことですよ。やっぱりそうなるかって感じです。怒りはありますよ。ただ、今の私の状況では消費税がどうこうより、仕事が見つかるかどうかの方が100倍大事で。正直それどころじゃない部分もある。

M：「それどころじゃない」というのは、もう少し聞かせてもらえますか？

藤田泰造：去年リストラにあって、もう8ヶ月仕事を探してるんですよ。48歳って、求人があっても「経験者募集」とか言いながら実際は若い人を取るじゃないですか。妻のパートと、子どもたちのアルバイトで何とかやってるけど、家計は本当にギリギリで。消費税が1%になったからって、私の生活は根本的には変わらない。でも、ゼロより1%の方が助かるのは確かですよ。食費は削れるだけ削ってるから。

M：なぜ1%案に対して「やっぱりそうなるか」と思ったんですか？

藤田泰造：政治って、結局お金持ちや大企業の方を向いてるじゃないですか。消費税ゼロにしたら企業の経理システムが大変とか、財源が足りないとか。そういう話が出ると、庶民の話は後回しになる。私みたいに失業して食費を削ってる人間のことは、後回しになるんですよ、いつも。

M：なぜ1%という案が出ているかご存知ですか？

藤田泰造：レジのシステムか何かじゃないですか？スーパーのレジが対応できないとか。そういう話を聞いた気がします。

M：そうです。0%だとシステム改修に約1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

藤田泰造：半年早くできるなら、まあ.....それはわかりますよ。現実的な話として。でも私が思うのは、そういう「できない理由」を先に並べる前に、国民に「こういう事情があって1%になりました、申し訳ありません」って、ちゃんと頭を下げる姿勢があるかどうかなんです。説明もなく変わってたら、ただの裏切りじゃないですか。

M：半年早いなら、1%の方がいいということですか？

藤田泰造：現実として1%が早く来るなら、それは助かりますよ。ゼロを何年も待つより、1%が半年後に来る方がいい。でも「ゼロって言ってたのに」っていう気持ちは絶対に残る。その両方が本音です。

M：今も決まっていなそう。それを聞いてどう思いますか？

藤田泰造：また延びるんですかね。もういい加減にしてくれって思いますよ。私たち、毎月の家計が本当にギリギリで生きてるんで。「検討中」って言いながら、その間も食費は8%取られてるんですよ。

Part 2：消費税についての認知・考え

M：消費税についての知識や考えを、自由に話してください。

藤田泰造：消費税って.....私、正直嫌いなんです。収入があろうとなかろうと、買い物したら同じ率で取られる。今みたいに失業してて収入がほとんどない状態でも、スーパーで買い物したら8%取られる。これって、おかしくないですか。所得税は稼いだ分だけ払う。でも消費税は稼いでなくても払う。だから低所得者の方がきつい。

M：その考えはどこから？

藤田泰造：自分で感じてるんですよ、今。去年まで給料があった時と、今とで、同じ買い物の消費税の重さが全然違う。数字は同じでも、体感が違う。それで気づいたというか。あとニュースとかでも「消費税は逆進性がある」って言いますよね。それが今は身に沁みてます。

M：実感として他に感じていることはありますか？

藤田泰造：物価が高くなりましたよね。食材も、光熱費も。これって消費税の話とは別の話なんですけど.....私も最初は「消費税が上がったから高くなったのか」って思ってたんですよ。でも調べると、食品の消費税は8%のまま変わってないんですよ。じゃあなんで高いんだって言ったら、円安とか原材料費とか輸送費とか.....消費税とは別の話だった。

M：それを知った時、どう思いましたか？

藤田泰造：消費税と物価の値上がりは別の問題なのに、全部まとめて「高くなった」って感じるから混乱するんですよ。政府もそれをちゃんと説明してこなかった。「消費税は上げてない、物価が上がったのは別の理由だ」って、もっとわかりやすく言えばいいのに。そうすると「消費税下げたって物価は下がらない」って気づく人も増えるわけで。でも政府は説明しないじゃないですか。

M：消費税の使い道について、どう思いますか？

藤田泰造：社会保障に使うって言ってますよね。でも.....私、今まさに社会保障にお世話になってるんですよ。雇用保険の給付を受けながら求職活動してる。給付が終わったら何で食うんだってなる。その社会保障の財源が消費税だって言われても、実感として「消費税のおかげで助かってる」とは思えないんですよ。むしろ「こんなに取られてて、なんで給付はこんなに少ないんだ」って思う。

M：給付が少ないと感じているのはなぜですか？

藤田泰造：雇用保険の給付って、もらえる期間が決まってるじゃないですか。それが終わったら、48歳の元会社員はどうすればいいんですか。求人は若い人優先で、年齢で弾かれる。スキルも業種もある。でも雇ってもらえない。これって個人の問題じゃなくて、社会の構造の問題だと思うんですよ。消費税で社会保障の財源を確保してるって言うなら、もっと中高年の再就職支援に使ってほしい。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

藤田泰造：変わった.....とはいいにくいですね。就任した時は「消費税ゼロ」を掲げてたから、少し注目したんですよ。それって庶民の味方をしようとしてるのかなって。女性が初めて総理になったっていうのも、まあ時代だなと思ったし。でも.....今は正直、よくわからない。消費税の話も結局変わってきてるし、毎日の生活で精一杯で、政治のニュースを追う余裕が正直ないんですよ。

M：藤田さんの今の状況——失業中で求職活動をしている立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

藤田泰造：中高年の雇用問題を、ちゃんと見てるのかどうかですよ。消費税を下げるとか、物価対策とか、そういう話は出てくる。でも「48歳がリストラされて仕事が見つからない」って問題は、あんまり大きく取り上げられない気がする。若者の就職とか、女性の活躍とかは言うじゃないですか。じゃあ私みたいな中年男性は？って思う。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

藤田泰造：ゼロって言ってたのに1%になりそうなのを見ると、押し切る力がないんだなとは思いますよ。党内の抵抗とか財務省とかに負けてるんでしょう、きっと。総理だからといって全部思い通りにできるわけじゃないのはわかる。でも、なぜ変わったのかの説明がないのは問題だと

思う。庶民の方を向いて「できませんでした、こういう理由です」って言うべきでしょう。言い訳じゃなくて、説明として。

M：今の高市総理に一言メッセージを送るとしたら、何と言いますか？

藤田泰造：「48歳が職を失ったら、どうやって生きていけばいいんですか？」って聞きたいですね。消費税がどうなるかより、仕事が見つかる社会になってるかどうかの方が、私には切実なんです。消費税1%下がって食費が月に数百円助かっても、仕事がなければ意味がない。政治家はそこを見てほしい。

M：なぜそのメッセージを伝えたいのですか？

藤田泰造：見えていないと思うからですよ。消費税の議論をしてる政治家の人たちが、私みたいな状況の人間のことをリアルに想像できてるとは思えない。数字で「失業率が何%」って見てるんでしょうけど、その数字の中に私がいる。求人票を送って、面接で年齢見て断られて、また送って.....その繰り返しの生活を、想像してもらいたい。

締め

M：奥様とこういった消費税や政治の話をすることはありますか？

藤田泰造：しますよ。妻が買い物から帰ってくると「また高くなった」とか「消費税下がるって本当なのかな」とか。妻はパートで働いてるので、食費のことは私より詳しい。消費税の話になると、妻は「1%でも下がれば助かる」って言います。私は「どうせ変わらない」って言う。妻の方が前向きです。私は.....疲れてるんでしょうね、色々。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

藤田泰造：.....「消費税より、仕事をくれ」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

藤田泰造：消費税が1%になっても、0%になっても、収入がゼロなら根本は変わらないんですよ。食費が月に千円安くなったって、来月の家賃の心配がなくなるわけじゃない。私が今一番欲しいのは仕事です。そこが解決しないと、消費税の話をしてても空虚に聞こえてしまう。.....そういう状況にいる人間が、この国にはたくさんいると思う。その人たちの声が、消費税の議論の中に入ってるのかどうか、疑問です。

M：今日話して、言い忘れたことや改めて思ったことはありますか？

藤田泰造：消費税が下がること自体は、悪いことじゃないと思います。ゼロでも1%でも、下がれば助かる人はいる。ただ、私が言いたいのは、消費税の議論だけをしてても日本の問題は解決しないってこと。雇用とか、賃金とか、社会保障の使い道とか、もっと根っこの話をしないとイケない。消費税を1%下げるより、中高年が仕事に就ける社会の方が、私には大事です。

No.46 「理由を最初から説明してくれれば、1%案の納得度は全然違った」――消費者心理を日々分析する 41 歳マーケター

対象者プロフィール

氏名	田辺 修
居住地	埼玉県さいたま市
年齢・性別	41 歳・男性
職業	会社員（広告代理店・マーケティング）
家族構成	妻（会社員）・子 1 人（7 歳）
政治関心/知識	中／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「消費者として見れば『政府がゼロを諦めた』ではなく『システムの問題で半年早くできる選択をした』という話なら、1%案への理解が深まります」と述べた。「マーケティング的に『ゼロ』は最強のコピーですからね」とも語った。

推論：レジシステムの説明を「情報の開示」として評価しており、内容よりも伝え方の問題として捉えている。生活者としての関心は薄い、マーケターとして政策コミュニケーションの失敗を読み取っている。「理由がわかれば納得度が上がる」という構造が一貫している。

FD：田辺にとって消費税 1%案への評価は「生活者として方向性に賛成」と「マーケターとして理由の説明が不十分だという批評」の二層になっている。レジシステムの理由を聞いて納得が深まった体験が、「最初から説明すべきだった」という批評につながっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「マーケティングの観点では、消費税の変更が消費者行動に与える影響は大きく、特に『ゼロ』は心理的なインパクトが全く違います」と述べた。「消費税が下がることよりも、物価全体の問題の方が生活実感として大きいですね」と語った。

推論：消費税への知識は高いが、評価の視点がマーケティングと生活実感の二つに分かれている。食費への影響は「家計への影響は正直小さい」と正直に認めており、政策論として消費税を評価する構造がある。

FD：田辺における消費税は「マーケティング目線で政策コミュニケーションの問題として見る側面と、生活者として物価問題の一部として見る側面が並走している」。食費への当事者感は薄い、消費者心理への影響という別の観点で深く関与している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品 1%案の理由を最初からちゃんと説明してください。理由がわかれば消費者の納得度は全然違います」がメッセージだと答えた。「レジシステムの理由を最初から説明していれば『ゼロを諦めた』ではなく『合理的な選択』として受け取られたはずです」と述べた。

推論：高市への評価は政策の中身よりも伝え方への批評が中心だ。レジシステムの理由を今日初めて知ったことで、「この説明が最初からあれば良かった」という逆向きの評価が生まれている。

FD：田辺の高市評価は「1%案の方向性は良いが、理由の説明が遅すぎた」という政策コミュニケーションへの批評だ。マーケターとして情報開示のタイミングと消費者の納得感の関係を鋭く指摘している。

【全体総括】

根拠：「理由の説明があれば 1%案の納得度は上がる」と締めた。「今日のレジシステムの話は興味深かった。政策の中身よりも伝え方がいかに重要かを改めて感じた」と述べた。

推論：田辺を貫く行動原理は「政策を消費者心理・コミュニケーションの観点から評価する」だ。生活者としての切実さよりも、マーケターとして政策の伝え方に関心が向く。レジシステムの説明が「情報開示のタイミング問題」という別の問いを引き出している。

FD：田辺修を特徴づけるのは「消費者行動を日々分析するマーケターとして、食料品消費税 1%案を政策コミュニケーションの観点から評価し、『理由を最初から説明していれば納得度が違った』と指摘する 41 歳」だ。「レジシステムの理由を最初から開示すべきだった」という言葉に、マーケターとしての視点が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただけで大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

田辺修：広告代理店でマーケティングの仕事をしています。消費者行動の調査や分析が仕事なので、「人がどう判断するか」をずっと考えている職業です。共働きで子どもが 7 歳、最近は子どもの習い事費用がかさんできました。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

田辺修：もちろん知っています。高市総理の食料品消費税ゼロの公約から、最近の 1%案まで追っています。マーケティングの観点からも面白い政策議論だなと見ています。

M：知っていることを教えてください。

田辺修：ゼロという大きな公約が出て、それが現実的な 1%案に変わってきているということですね。消費者心理的には「ゼロ」のインパクトは絶大ですが、「1%」は期待を下げますよね。ただ生活者としては 1%でも下がれば助かります。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

田辺修：共働きで世帯年収は 850 万ほどなので、生活は安定しています。食費は月 6〜7 万円くらいです。消費税が 1%変わっても家計への影響は小さいですが、下がるなら助かりますね。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

田辺修：個人としては「助かるけどそれほど大きくない」という感覚です。ただメーカーとして、「ゼロ」が「1%」になった時の消費者心理への影響は気になりました。

M：今日は家庭の食費という観点でお聞きしています。食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、生活者としてどう思いますか？

田辺修：生活者として言えば、1%でも下がるなら歓迎します。方向性は良いと思います。

M：なぜそう思いますか？

田辺修：食費が少し下がれば、その分を子どもの習い事に回せます。影響は小さくても、方向性として良いことだと思います。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

田辺修：覚えています。マーケティング的に「ゼロ」は最強のコピーですからね。強烈に覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

田辺修：驚かないですね。大きな公約が修正されるのはよくあることで。消費者として見れば「期待を下回った」という感覚ですが、政策として現実的な修正だと思います。

M：1%になったとしたら評価しますか？

田辺修：評価します。完璧ではないけれど、良い方向への一歩だと思います。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

田辺修：知りたいです。理由があれば納得の仕方が変わりますから。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

田辺修：知らないです。財政的な問題かと思っていましたが。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

田辺修：なるほど、技術的な制約なんですね。財政問題ではなく実装の問題だったと。それを聞いて、消費者として見方が変わりました。「政府がゼロを諦めた」ではなく「システムの問題で半年早くできる選択をした」という話なら、1%案への理解が深まります。半年早く恩恵が届くなら、1%の方が合理的ですね。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

田辺修：そうです。理由がわかれば納得度が上がります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

田辺修：早く決めてほしいですね。消費者の期待をコントロールするためにも、早い意思決定と説明が大事だと思います。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

田辺修：食料品が8%で他が10%というのは知っています。消費税が社会保障の財源になっているのも。マーケティングの観点では、消費税の変更が消費者行動に与える影響は大きく、特に「ゼロ」は心理的なインパクトが全く違います。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

田辺修：共働きで食費は月6〜7万円です。消費税が1%下がれば年間で数千円の節約になります。が、家計への影響は正直小さいです。ただ方向性として良いことだと思います。

M：その情報はどこから？

田辺修：ニュースと仕事の情報から。マーケティングの仕事をしているので消費者の行動や経済動向は常にウォッチしています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

田辺修：物価上昇は感じています。スーパーでの買い物の金額が上がっているのは実感します。消費税が下がることよりも、物価全体の問題の方が生活実感として大きいですね。

M：それについてはどう思いますか？

田辺修：消費税1%案は物価上昇の一部を緩和する効果はありますが、根本的な物価問題の解決にはなりません。ただ方向性として良いことで、積み重ねが大事だと思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

田辺修：就任前は経済に積極的という印象でした。消費税ゼロの公約は「大きく出た」と思いましたが、マーケティング的には最強のメッセージです。1%案になったのは現実的な修正ですが、消費者へのメッセージとしては弱くなりました。

M：マーケティングの仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

田辺修：政策の伝え方が気になります。「ゼロ」が「1%」に変わった理由の説明が不十分だと、消費者は「約束を破った」と感じます。今日聞いたレジシステムの理由を最初から説明していれば、消費者の受け取り方は全然違ったはずです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

田辺修：方向性は良いと思います。ただ今日のシステムの理由を最初から開示すべきでした。理由の説明があれば、1%案への理解度は上がります。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

田辺修：「食料品 1%案の理由を最初からちゃんと説明してください。理由がわかれば消費者の納得度は全然違います」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

田辺修：マーケティングの仕事をされていて、情報の伝え方が消費者の判断に大きく影響することをよく知っています。レジシステムの理由を最初から説明していれば「ゼロを諦めた」ではなく「合理的な選択」として受け取られたはずです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

田辺修：します。妻も「食費が下がれば助かるけど、ゼロはどこに行ったの？」と言っていました。理由の説明が足りないと感じているようです。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

田辺修：「理由の説明があれば 1%案の納得度は上がる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

田辺修：レジシステムの理由を聞いて、「ゼロを諦めたのではなく合理的な判断だった」と受け取り方が変わりました。この説明が最初からあれば、消費者の反応は違っていたと思います。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

田辺修：今日のレジシステムの話は興味深かったです。政策の中身よりも伝え方がいかに重要かを改めて感じました。1%案は良い方向性ですし、その理由をもっと広く伝えてほしいです。

M：ありがとうございました。

No.47 「今の家計がきつい時期に、ゼロより 1%で半年早く食費を下げてほしい——介護職で保育料もかかる 34 歳」

対象者プロフィール

氏名	大沢 誠
居住地	埼玉県草加市
年齢・性別	34 歳・男性
職業	介護士（正職員）
家族構成	妻（パート）・子 1 人（2 歳）
政治関心/知識	中／低

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「2 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしい」と述べ、「1%で半年早く始まる方が助かります」と語った。「今の家計が厳しい時期に、少しでも早く助かりたい」と続けた。

推論：2 歳の子どもと収入が高くない介護職という状況が「今の家計が厳しい」という切実感の根拠になっている。ゼロへの残念感はあるが、「早く助かりたい」という現在の家計圧迫感が 1%を選ぶ判断として出た。

FD：大沢にとって消費税 1%案への賛成は、収入が高くない介護職として保育料もかかる今の時期に、少しでも早く家計の負担が減ってほしいという切実な動機から来ている。「今の家計が厳しい時期」という言葉に、現状の家計逼迫感が凝縮されている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月 5～6 万円の食費で、1%になれば年間 4～5 万円くらい違う。子どもの保育料が月 4～5 万円かかっているので、食費が少し下がれば助かります」と述べた。

推論：保育料（月 4～5 万円）と食費節約額（年間 4～5 万円）を同じ文脈で語ることで、消費税節約の意味が保育料という大きな固定費との対比で語られている。節約額が保育料の約 1 カ月分に相当するという感覚が、「助かる」という動機の実質的な根拠になっている。

FD：大沢における消費税は「保育料という大きな固定費と並べてようやく意味が見えてくる家計の余裕」として位置づけられる。収入が高くない介護職という背景が「少しでも助かりたい」という動機を補強している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「子育て支援がどうなるかが気になります。保育料が高くて、子どもが小さい今の時期は出費が多いので」と述べた。「食費が少し下がるのはありがたいですが、保育料の負担の方が今は重いです」と続けた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への受け入れだが、保育料という今の生活最大課題が前景化している。消費税への賛成と保育料負担への訴えが並走しており、後者の方が今の切実感として大きい。

FD：大沢の高市評価は「食費が下がるのは助かる、でも保育料の方が今は重い負担」という2歳児の父としての正直な優先順位だ。消費税節約が子育て支援という別の課題の前で相対化されている。

【全体総括】

根拠：「給料が高くない介護の仕事で保育料もかかっている今の時期に、1%でも半年早く食費が下がってほしい」と締めた。「家計がきつい時期に、食費が少しでも早く下がれば助かります」という言葉が一貫した動機を示している。

推論：大沢を貫く行動原理は「収入が高くない介護職として保育料もかかる今の時期に、ゼロより半年早い1%を家計の切実な判断として支持する」だ。「今の家計が厳しい時期」という言葉が繰り返し出てきており、現状の家計逼迫感が評価全体の底流になっている。

FD：大沢誠を特徴づけるのは「収入が高くない介護職として子ども2歳・保育料月4~5万という家計の厳しさの中で、消費税節約を保育料との対比で語りながら、ゼロより半年早い1%を切実に支持した34歳」だ。「今の家計が厳しい時期に少しでも早く助かりたい」という言葉に、家計圧迫下での率直な判断が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

大沢誠：介護施設で正職員として働いています。妻と2歳の子どもがいます。草加市に住んでいます。子どもが生まれてから出費が増えていて、妻もパートで働いてくれているんですが、家計はまだ厳しい感じがしています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

大沢誠：知っています。食べ物の消費税がゼロになるとか、最近は1%になるという話ですね。高市総理が言っていた気がします。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

大沢誠：食費は月 5～6 万円くらいかかっています。2 歳の子どもがいて、離乳食が終わって普通の食事をするようになってきたので、少しずつ食費が増えてきています。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

大沢誠：助かります。8%より低い方がいいです。うちは収入がそんなに多くないので、少しでも食費が下がれば家計が楽になります。

M：「助かる」というのは、毎月の家計に余裕ができるということですか？

大沢誠：そうです。月 5～6 万円の食費で 8%から 1%になれば月 3,000～4,000 円くらい変わります。子どもの保育料とかいろいろ出費がありますので、その分が助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

大沢誠：ぼんやり覚えています。ゼロになったら良かったなとは思っています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

大沢誠：少し残念ですが、驚かなかったです。何か理由があるんだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

大沢誠：評価します。8%より全然いいです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

大沢誠：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

大沢誠：そういう理由なんですね。全国のスーパーのレジを変えるのは確かに大変そうです。2 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしいので、1%で半年早く始まる方が助かります。今の家計が厳しい時期に、少しでも早く助かりたいです。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

大沢誠：そうですね。早い方がいいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

大沢誠：早く決まってほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

大沢誠：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。レシートを見れば書いてあるので。あまり詳しいわけではないですが。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

大沢誠：月 5～6 万円かかっています。1%になれば年間で 4～5 万円くらい違いますよね。子どもの保育料が月 4～5 万円かかっているんで、食費が少し下がれば助かります。

M：その情報はどこから？

大沢誠：ニュースで見ました。妻からも聞きます。妻の方が日々の買い物をしているので、物価の変化に詳しいです。

M：何か実感として感じているものはありますか？

大沢誠：物価が上がっているのは実感しています。スーパーで同じものが前より高くなっているのがわかります。子どもが大きくなってきて食べる量も増えているので、食費全体が増えている感じがします。

M：それについてはどう思いますか？

大沢誠：消費税が少しでも下がれば助かります。今は家計がきつい時期なので。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

大沢誠：就任してから「女性の総理が生まれた」という印象でした。食料品の消費税の話は家計として助かります。

M：2 歳のお子さんを育てながら介護の仕事をされている父親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

大沢誠：子育て支援がどうなるかが気になります。保育料が高くて、子どもが小さい今の時期は出費が多いので。食費が少し下がるのはありがたいですが、保育料の負担の方が今は重いです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

大沢誠：方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

大沢誠：「食費が少し下がると家計として助かります。1%でも早く始めてください。子育て支援も充実してほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

大沢誠：介護の仕事は給料がそれほど高くなくて、子どもが2歳で保育料もかかっています。食費が少しでも下がれば、その分が保育料とか子どものために使えます。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

大沢誠：します。妻も「食費が下がれば助かる」と言っています。家計のことはよく二人で話します。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

大沢誠：「給料が高くない介護の仕事で保育料もかかっている今の時期に、1%でも半年早く食費が下がってほしい」ですね。

M：なぜそう思いますか？

大沢誠：家計がきつい時期に、食費が少しでも早く下がれば助かります。システムの問題で半年早く始まるなら、1%の方が今の生活には合っています。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

大沢誠：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.48 消費税は店が決めると思ってた——46 歳電気工事職人が今日初めて気づいたこと

対象者プロフィール

氏名	山口 賢二
居住地	越谷市（埼玉県）
年齢	46 歳・男性
職業	自営業（電気工事）
世帯年収	約 620 万
家族構成	妻・子 3 人（16 歳・13 歳・10 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【Part 1】根拠：1%案を「ないよりマシ」と述べ、「ゼロと 1%がどう違うかわからない」と語った。システム理由を聞いて「電気工事でもシステム改修は手間がかかる、半年早く下がるなら 1%でもいい」と職業経験から即座に納得した。公約変更には「驚かない、政治家の言うことは話半分で聞かないと」と述べた。「まだ検討中」には「早く決めてほしいけど、しょうがない、待つしかない」と諦め混じりで応じた。／推論：消費税への関心は低い、子ども 3 人の家計負担から「助かるのは助かる」という実利的な評価軸がある。職業的経験がシステム理由への納得を早めた。政治への不信は慢性的で変動しない。／FD：実利的メリットと具体的な理由説明があれば反射的に受け入れる実用主義的な層。政治への期待より「早く決めてほしい」という生活者としての切実さが先に立つ。

【Part 2】根拠：「消費税は店が決めるもの」「消費税と食材の値上がりは同じもの」という二つの誤認が明確に出た。店が消費税を決めていると思っていた理由は「税込み表示を見て店が決めた値段だと思っていた」から。インタビューを通じて両方の誤解が解け「よくわかってなかった」と述べた。インボイス制度には「自営業者いじめ」と強い不満を持つ。／推論：消費税の仕組みを正確に理解していないのは関心の低さからではなく「難しい話として避けてきた」から。価格と税の区別がつかない状態では消費税 1%引き下げの恩恵を正確に評価できない。／FD：消費税の仕組みへの誤認が生活者層に広く存在することを示す典型例。正確な情報が届けば理解できる層で、「知ってスッキリした」という反応がその証左。

【Part 3】根拠：高市総理へのメッセージは「現場の声を聞いてほしい」。消費税ゼロへの期待とインボイス制度への不満を同時に持ち「片方だけ良くなっても」と述べた。「政治は遠い話だが現場では毎日しんどい思いをしている、届いていないんじゃないかという気がするから言いたい」と語った。／推論：消費税単体ではなく「制度変更のたびに振り回される自営業者の負担」として政策を評価している。具体的な政策課題（インボイス・消費税）との接点を持っており疎外感はあるが、怒りより諦めが先に来る。／FD：政治への不信は慢性的だが「現場目線」での政策説明があれば届く可能性がある層。消費税とインボイスをセットで捉えており、片方だけの改善では評価しない。

【全体総括】根拠：「消費税は店が決めると思っていた」「消費税と食材の値上がりを一緒くたにしていた」という二つの誤認と、インタビューを通じた「すっきりした」という気づきが核心。「難しい話だと思って避けてたけど、聞いてみたらそんなに難しくなかった」と締めた。／推論：消費税への誤認は習慣的な情報回避の結果。子ども3人の食費という実利的関心は持っており、正確な情報が届けば理解・評価できる。「わかってすっきり」という反応は、情報が届いていないだけで理解意欲がある層の存在を示す。／FD：消費税の仕組みを正確に理解していない生活者が広く存在することを示す。「消費税と物価の違い」「税率変更と価格変動の違い」を丁寧に伝えることが政策コミュニケーションの出発点として有効な層。

発言録

【導入】

M：山口さん、今日はお時間いただきありがとうございます。正解・不正解はありませんので、日頃感じていることをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活で気になっていることや、関心があることは何かありますか？

山口賢二：「そうですね.....材料費とか工具代がじわじわ上がってきてるのが正直きつくて。現場の仕事してるんで、毎日バタバタしてて。子どもが3人いるんで食費もかかるし、家計はなかなかきついですよ。」

【Part 1】食料品消費税の議論への賛否と理由

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？知っていることを教えてください。

山口賢二：「なんか.....ゼロにするとか言ってましたよね。テレビでやってた気がして。正直あんまり詳しくは追ってないですけど。」

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

山口賢二：「ほんとにゼロになんの？って思いましたよ。子ども3人いるんで食費はかかるし、なったらありがたいなとは思ったんですけど.....どうせまた変わるんだろうなって。税金ってそういうもんじゃないですか。」

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

山口賢二：「1%か.....。ゼロって言ってたのに、って感じですよ。まあでも下がるならいいか、とは思いますが。正直ゼロと1%がどう違うかって言われると、ぱっとはわからないですけど。」

M：なぜそう思いますか？

山口賢二：「子ども3人いて、食費は毎月けっこうな額になるんで。消費税が少しでも下がれば、その分助かるのは助かるんですよ。ただ.....税金って、どうせ取られるから気にしても仕方な

いって気持ちが正直あって。下がった下がったって言っても、別のところで上がったりするじゃないですか。」

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

山口賢二：「うっすら覚えてます。高市さんでしたっけ。」

M：驚きましたか？1%になりそうと聞いて。

山口賢二：「驚かないですね。やっぱりそうなるよなって。政治家の言うことは話半分で聞いとかなないと、みたいな。」

M：では、1%になったとしたら評価しますか？

山口賢二：「ゼロよりは悪いけど.....まあ下がるんならいいんじゃないですかね。ないよりマシって感じです。」

M：0にできない理由について知りたいですか？

山口賢二：「気にはなりますけど、まあそこまで詳しく調べようとは思わないですね。理由があるんでしょうけど、どうせ複雑な話でしょうし。」

M：なぜ1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

山口賢二：「わからないですね。なんでなんですか？」

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約1年かかるためです。0%だと1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

山口賢二：「ああ、システムの問題か。それはわかる気がしますね。電気工事でもシステム絡みの改修って手間かかるんで。半年早く下がるなら、1%でもいいんじゃないですかね。どうせ待ってる間も食費はかかるんで。」

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

山口賢二：「そうですね。待つより早い方がいいですよ。生活してるんで。」

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

山口賢二：「.....まあそうですね。そう簡単には決まらないか。早く決めてほしいとは思いますが、まあしょうがないかな。待つしかないですよ。」

【Part 2】消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税について、日頃どのような知識や情報をお持ちですか？また、どのようにお考えですか？自由にお話してください。

山口賢二：「消費税か.....。食料品が8%で、それ以外が10%っていうのは知ってます。軽減税率ってやつですよ。自営なんでインボイスの話もあって、正直めんどくさくなりましたよ。帳

簿とか領収書の管理が増えて。でも消費税って何のためにあるのかって言ったら.....社会保障ですよ。年金とか医療とか。でも実感としては全然わからないですね。何が良くなったのか。」

M：その情報はどこから？

山口賢二：「テレビですね。ニュースでやってるのを見る程度で。あとは現場と一緒に仕事する人との話とか。同じ自営の人とはインボイスの話をよくしますよ。みんな大変だって言って。」

M：それについてはどう思いますか？

山口賢二：「インボイスは正直、自営業者いじめだなって思ってます。仕事の中身は変わらないのに、事務作業だけ増えて。消費税の話全体として言えば.....取られるのは仕方ないと思うんですけど、使い道がよくわからない。子どもの医療費とか教育費とか、そういうところにちゃんと使ってほしい。うちは3人いるんで。」

M：実感として感じているものはありますか？

山口賢二：「材料費が上がってるのは実感してます。電気工事に使う資材とか、銅線とかが高くなって。消費税とは別の話かもしれないですけど、全部込みで「高くなったな」って感じ方をしてますね。食費も上がってる。消費税が1%下がっても、食材自体が高くなってたら意味ないじゃないかって気はしますよ。」

M：消費税が1%下がっても食材が高くなってたら意味ない」とおっしゃいましたが、それはどういう感覚ですか？

山口賢二：「結局、財布から出ていくお金は変わらないんじゃないかってことです。消費税が下がっても、スーパーの値段が上がってたら一緒じゃないですか。なんか.....税だけの問題じゃなくて、物価全体が問題なんだと思って。消費税ばかり議論してて、それでいいのかって気はしますね。」

M：山口さん、スーパーで食料品を買う時、消費税と食材の値段って、頭の中で別々に意識していますか？

山口賢二：「.....別々に、か。う〜ん。正直、レジで払う合計額しか見てないですね。8%がいくらで、とかは気にしてないかも。」

M：食材が高くなったと感じる時、それは消費税のせいだと思いますか？それとも食材そのものの値段が上がっているせいだと思いますか？

山口賢二：「.....言われると、食材自体が上がってる気はしますね。卵とか鶏肉とか、前より高くなってるとじゃないですか。消費税は.....8%のまま変わってないから、それじゃないんですよね。あ、そうか。消費税は変わってないのか。」

M：そうなんです。食料品の消費税は8%のままで、変わっていないんです。それを聞いてどう思いますか？

山口賢二：「じゃあ食材が高くなってるのは消費税のせいじゃないのか.....なんか、全部ごちゃっとなってた気がしますね。値段が上がってる＝税金のせい、みたいに思ってたかもしれない。」

M：消費税が 1%に下がったとしたら、スーパーの値段はどう変わると思いますか？

山口賢二：「.....下がるんですかね？でもお店が下げてくれるかどうか。消費税下がっても、お店がそのままにしてたら変わらないですよ。」

M：消費税が下がっても、お店がそのままにしてたら変わらない」とおっしゃいましたが、それはどういう意味ですか？

山口賢二：「あ.....えーと。なんか、消費税って店が決めてるイメージがあって。値段って店が決めるじゃないですか。だから店が「うちは値下げしません」ってなったら、消費税下がっても値段変わらないんじゃないかなって。」

M：消費税は、お店が決めるものだと思っていましたか？

山口賢二：「.....あれ、違うんですか？なんか税込みで表示してるから、店が決めてる値段に消費税が含まれてる、みたいな感じで思っていました。」

M：消費税は国が決める税率で、お店が独自に変えることはできないんです。税率が下がれば、自動的に税込み価格も下がります。それを聞いてどう思いますか？

山口賢二：「あ、そうなんですね。それは知らなかった。じゃあ消費税が 1%になったら、スーパーの値段もちゃんと下がるってことか。.....それならちゃんと実感できますね。正直、よくわかってなかったです。」

【Part 3】高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

山口賢二：「就任したのは知ってます。女性で初めての総理ってことでニュースになってたし。就任前はあまり知らなかったですけど、消費税ゼロって言ってた人というイメージがついて。印象.....特別変わったって感じはないですけど、まあ頑張ってるなとは思いますが。」

M：山口さんは自営業で子ども 3 人育てている立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

山口賢二：「インボイスのことは正直どうにかしてほしいですよ。自営業者の負担が増えてるのに、そこへの手当てがない気がして。消費税ゼロって言ってくれてたのは嬉しかったですけど、インボイスは続いているし.....片方だけ良くなっても、みたいな気持ちはありますね。」

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

山口賢二：「ゼロにしようとしてくれてたのはわかるんですけど、1%になりそうって聞いて.....まあしょうがないのかなとは思ってます。さっき理由を聞いてシステムの話もわかったし。でも最初から言ってくれよって気持ちはありますよ。なんで後から変わるのかって。」

M：今の高市総理に一言メッセージを送るとしたら、何と言いますか？

山口賢二：「.....「現場の声を聞いてほしい」ですかね。自営でやってると、制度が変わるたびに振り回されるんですよ。インボイスしかり、消費税しかり。大きな話ばかりじゃなくて、毎日現場で働いてる人間のことも見てほしい。」

M：なぜそう言いたいのですか？

山口賢二：「政治って、どこか遠い話に感じるんですよ。でも現場では毎日、材料費が上がって、事務作業が増えて、しんどい思いをしてる。そこがちゃんと届いてるのかな、って。届いてないんじゃないかって気がしてるから、言いたいです。」

【締め】

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

山口賢二：「たまにしますよ。妻も「消費税下がるといいね」って言ってましたし。ただ深い話はしないですね。「早く決まってほしいね」くらいで終わる感じで。」

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

山口賢二：「消費税のこと、意外とよくわかってなかったなって。店が決めてると思ってたし、消費税と食材の値上がりも一緒くたにしてた。今日話してちょっとすっきりしました。」

M：なぜすっきりしたのですか？

山口賢二：「消費税って店が決めてるもんだと思ってたのが、違うってわかって。あと消費税と食材の値上がりをごちゃっと考えてたのが、ちゃんと別の話だってわかって。なんかモヤモヤしてたのが整理できた感じがしました。難しい話だと思って避けてたけど、聞いてみたらそんなに難しくなかったというか。」

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

山口賢二：「早く決めてほしい、それだけです。現場は毎日動いてるんで。」

No.49 「やっぱりシステムの問題だった、1%案は技術的に合理的だと思います」——税率変更の実装を経験した 32 歳 SE

対象者プロフィール

氏名	木村 大輔
居住地	埼玉県川越市
年齢・性別	32 歳・男性
職業	会社員（IT・システムエンジニア）
家族構成	妻（会社員）・子なし
政治関心/知識	中／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「税率変更のシステム対応を経験したことがあるので、ゼロの対応が特殊になることは知っていました。全国のスーパーのレジを同時に対応させるなら、確かに 1 年はかかります。1% なら既存の計算ロジックの延長で対応できるので、半年の読みは納得できます」と述べた。

推論：レジシステムの説明に対して「やっぱりそうでしたか」と応じており、技術的な予想が当たったことへの納得感がある。消費税ゼロのシステム対応の難しさを実務レベルで知っているため、説明の信憑性を即座に検証できている。生活者としての評価よりもエンジニアとしての技術的検証が先行している。

FD：木村にとって消費税 1%案への賛成は「技術的に合理的な選択であるという確認」から来ている。自分の実務経験がレジシステムの説明への完全な納得を生んでおり、「技術的に合理的」という評価が生活者視点の賛成を下支えしている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「軽減税率の導入時に 8%と 10%を区別するシステム改修を担当したので、税率区分の意味は実装レベルで理解しています」と述べた。「消費税の影響なのか物価全般の問題なのか、SE としてはデータで見たい」と語った。

推論：消費税への知識は実装レベルで高く、制度よりも技術的な仕組みとして消費税を捉えている。食費への影響は「正直影響は小さい」と正直に認めており、政策論として評価する構造がある。「データで見たい」という発言に SE としての思考様式が現れている。

FD：木村における消費税は「実装経験から来る技術的な理解」と「生活者としての小さな関心」の組み合わせだ。食費への当事者感は薄く、消費税議論をシステムの問題として捉える独特の視点がある。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品 1%案の技術的な判断は正しいです。日本全体のシステムインフラの柔軟性も高めてください」がメッセージだと答えた。

推論：消費税 1%案への評価から、日本全体のシステムインフラという別の問題へ議論が展開している。「税率変更のたびにシステム改修が大変という問題は今回のレジに限った話ではない」という発言が、個別政策の評価を超えた問題意識を示している。

FD：木村の高市評価は「1%案の技術的判断は正しい、日本のシステムインフラの柔軟性も上げてほしい」という拡張した要求だ。エンジニアとして消費税の話をシステムインフラの問題として捉え、より大きな課題への関心を示している。

【全体総括】

根拠：「やっぱりシステムの問題だった、1%案は技術的に合理的」と締めた。「自分の仕事の経験が政策を理解する助けになりました」と述べた。

推論：木村を貫く行動原理は「技術的な経験から政策を評価し、合理性の確認が賛成の根拠になる」だ。予想していた技術的な理由が当たったことへの納得感と、それが生活者視点の賛成につながる構造がある。

FD：木村大輔を特徴づけるのは「税率変更の実装経験からレジシステムの話に即座に納得し、1%案を技術的に合理的と評価する SE 的思考を持つ 32 歳エンジニア」だ。「1%なら既存の計算ロジックの延長で対応できるので、半年の読みは納得できます」という発言に、エンジニアとしての技術的検証が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

木村大輔：IT 系の会社でシステムエンジニアをしています。共働きで子どもはいないので、生活は比較的安定しています。仕事では消費税率の変更に対応したシステム改修を担当したことがあるので、税率変更がシステムにどう影響するかは肌感覚でわかります。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

木村大輔：知っています。高市総理の食料品消費税ゼロの公約も、最近の 1%案も知っています。SE 的な視点からも、税率変更のシステム対応は大変だと思って見ていました。

M：知っていることを教えてください。

木村大輔：ゼロという大きな公約が出て、それが 1%案になってきているということですね。技術者として、税率ゼロのシステム対応は特殊な実装が必要で大変だろうとは思っていました。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

木村大輔：共働きで世帯年収は 780 万くらいです。食費は二人で月 4～5 万円くらいです。消費税が 1%下がれば助かりますが、正直そこまで大きな影響はないです。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

木村大輔：食費が下がれば良いことだと思いますが、SE 的には「ゼロの対応は確かに大変そうだな」という方に関心が向きました。

M：今日は家庭の食費という観点でお聞きしています。食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、生活者としてどう思いますか？

木村大輔：生活者として言えば、1%でも下がれば助かります。方向性は良いと思います。

M：なぜそう思いますか？

木村大輔：食費が少しでも下がれば、その分を別のことに使えます。子どもはいないですが、共働きでも節約できるに越したことはないです。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

木村大輔：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

木村大輔：驚かないですね。技術者として、ゼロの対応は難しいと思っていましたし。

M：1%になったとしたら評価しますか？

木村大輔：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

木村大輔：ぜひ聞きたいです。技術的な理由なのか財政的な理由なのか、気になっていました。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

木村大輔：システムの問題ではないかと予想していました。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

木村大輔：やっぱりそうでしたか。実は、税率変更のシステム対応を経験したことがあるので、ゼロの対応が特殊になることは知っていました。消費税の計算ロジックに「ゼロ」を組み込む場合、例外処理や既存の業務フローとの整合性チェックが複雑になります。全国のスーパーのレジを同時に対応させるなら、確かに 1 年がかかります。1%なら既存の計算ロジックの延長で対応できるので、半年の読みは納得できます。1%案は合理的だと思います。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

木村大輔：そうです。技術的に合理的な選択だと思います。生活者としても早い方がいいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

木村大輔：早く決めてほしいですね。システム対応の準備期間が必要なので、決定が早いほど現場が助かります。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

木村大輔：食料品が8%で他が10%というのは知っています。システムエンジニアとして、軽減税率の導入時に8%と10%を区別するシステム改修を担当したので、税率区分の意味は実装レベルで理解しています。消費税が社会保障の財源になっているのも把握しています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

木村大輔：二人で食費は月4～5万円です。消費税が1%下がれば年間で数千円の節約になりますが、正直影響は小さいです。ただ方向性として良いことだと思いますし、多子世帯や低所得の方には大きな意味があると思います。

M：その情報はどこから？

木村大輔：ニュースや技術系の情報から。IT系なので経済ニュースも追っています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

木村大輔：物価上昇は感じています。スーパーでの買い物が高くなっているのは実感します。消費税の影響なのか物価全般の問題なのか、SEとしてはデータで見たいですが。

M：それについてはどう思いますか？

木村大輔：消費税が下がれば少し楽になりますが、物価全体の問題は別の対策も必要だと思います。1%案は良い方向性だと思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

木村大輔：就任前は経済・安全保障に強い印象でした。消費税ゼロの公約は「技術的に大変なことを言うな」と思いましたが、1%案になったのは現実的な修正という感じです。

M：システムエンジニアのお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

木村大輔：デジタル化と行政システムの改善が気になります。今日のレジシステムの話聞いて、日本のシステムインフラがいかに変更しにくいかに改めて感じました。消費税の話に限らず、柔軟に対応できるシステム基盤を整えてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

木村大輔：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の技術的な理由は完全に納得しました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

木村大輔：「食料品 1%案の技術的な判断は正しいです。日本全体のシステムインフラの柔軟性も高めてください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

木村大輔：税率変更のたびにシステム改修が大変という問題は、今回のレジシステムに限った話ではないです。日本全体のシステムが変更に対応しやすくなれば、こういう問題も減ると思うので。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

木村大輔：します。妻は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。私がシステムの話をするとう「難しいね」と言われますが。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

木村大輔：「やっぱりシステムの問題だった、1%案は技術的に合理的」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

木村大輔：税率変更のシステム対応を経験しているので、ゼロの対応が大変なことは予想していました。半年で実現できる 1%案は、技術的に見ても合理的な選択です。生活者としても早い方が助かります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

木村大輔：今日のレジシステムの話で、自分の仕事の経験が政策を理解する助けになりました。1%案は技術的にも生活者的にも良い判断だと思います。あとは日本全体のシステムインフラの柔軟性を高めてほしいです。

M：ありがとうございました。

No.50 「1%でも早く始めてほしい、子どもの受験費用で食費も削っている」——教育費に追われる 45 歳私立高校教員

対象者プロフィール

氏名	上田 淳
居住地	埼玉県さいたま市
年齢・性別	45 歳・男性
職業	高校教員（私立）
家族構成	妻（専業主婦）・子 2 人（15 歳・12 歳）
政治関心/知識	高／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「上の子が高校生で受験を控えていますし、塾代や参考書代など教育費が毎月大変な状況です」と述べた。レジシステムの説明に「授業で使えそうな話です。生徒に政策の話をする時に、『なぜそうなったか』という理由を説明することが大事だと思っているので、1%で半年早く始まる方が理にかなっていますね」と応じた。

推論：消費税 1%案への関心が「食費が下がれば教育費に回せる」という家計のやりくりと直結している。レジシステムの説明を「授業で使えそう」と評価しており、政策への納得を教育者の視点で検証している。生活実感と教員としての視点が同時に動いている。

FD：上田にとって消費税 1%案への賛成は「教育費に追われる家計の中で、食費が少しでも下がれば助かる」という切実さから来ている。レジシステムの理由を「生徒に説明できる内容」として評価しており、教員としての視点が政策への納得に加わっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「子どもが受験期で教育費がかさんでいるので、食費は節約しています。消費税が 1%でも下がれば年間で数千円の節約になりますし、その分を教育費に回せます」と述べた。「物価が上がって生活が苦しい家庭が増えているのを、学校でも感じています」と語った。

推論：消費税への関心が「食費の節約分を教育費に回す」という具体的な家計の流れとして語られている。教員として生徒の家庭の経済状況も見えており、消費税削減を自分の家計だけでなく生徒の家庭への影響として評価する視点がある。

FD：上田における消費税は「自分の家計では教育費と食費のやりくりの問題、学校では生徒の家庭の経済問題」という二重の意味を持つ。教育費という最大の家計圧力が消費税への切実さを生んでいる。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の消費税 1%、早く始めてください。教育費の負担軽減も合わせて進めてください」がメッセージだと答えた。

推論：食料品消費税と教育費という二つの要求が並立している。「教育費そのものの負担が大きい」という発言が、消費税 1%案を生活改善の一步として評価しながら、根本的な問題は教育費にあると示している。

FD：上田の高市評価は「食料品 1%は良い一步、教育費の軽減も同時に進めてほしい」という二重の要求だ。子どもの受験を控えた父親として、食費節約より教育費軽減の方が切実な問題として根底に走っている。

【全体総括】

根拠：「1%案の理由がわかった、食費も教育費も早く楽にしてほしい」と締めた。「今日のレジシステムの話は、授業でも使えるような内容でした」と述べた。

推論：上田を貫く行動原理は「教育費に追われる家計の中で、あらゆる節約が教育費に収束していく」だ。レジシステムの理由を「授業で使える」という形で収用しており、生活者と教員の視点が分かちがたく混ざり合っている。

FD：上田淳を特徴づけるのは「子どもの受験費用で食費も削りながら、消費税 1%案を教育費捻出の一助として歓迎し、その理由を授業でも使えると評価する 45 歳高校教員」だ。「食費が少し下がれば、その分を教育費に回せます」という言葉に、教育費という最大の家計圧力が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

上田淳：私立高校で教員をしています。妻は専業主婦で、子どもが 15 歳と 12 歳で二人とも学費がかかる時期です。上の子が高校生で受験を控えていますし、塾代や参考書代など教育費が毎月大変な状況です。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

上田淳：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を掲げていたのも、最近 1%案が出ているのも把握しています。

M：知っていることを教えてください。

上田淳：ゼロという大きな公約が出て、それが1%案に変わってきているということですね。教員として、消費税の引き下げが家庭の生活にどう影響するかには関心があります。生徒の家庭の経済状況もさまざまなので。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

上田淳：妻が専業主婦で私の収入だけなので、食費は節約を意識しています。月6〜7万円くらいですが、教育費がかさむので食費も節約しなければいけない状況です。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

上田淳：食費が下がれば助かると思いました。ただ「本当にできるのかな」という半信半疑な気持ちもありました。

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

上田淳：ゼロの方が良かったですが、1%でも下がれば助かります。教育費で家計が厳しいので、食費が少しでも楽になれば。

M：なぜそう思いますか？

上田淳：子どもが受験期で塾代や受験費用が増えています。食費が1%でも下がれば、その分を教育費に回せます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

上田淳：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

上田淳：「まあそうなるか」という感じです。大きな公約が変わることはよくあることで。

M：1%になったとしたら評価しますか？

上田淳：評価します。下がること自体は良いことです。

M：0にできない理由について知りたいですか？

上田淳：知りたいです。生徒に説明できるようになりたいので。

M：なぜ1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

上田淳：知らないです。財政的な理由かと思っていました。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約1年かかるためです。0%だと1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

上田淳：なるほど、システムの問題なんですね。それは知りませんでした。授業で使えそうな話です。生徒に政策の話をする時に、「なぜそうなったか」という理由を説明することが大事だと思っているので。1%で半年早く始まる方が理にかなっていますね。家計としても早い方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

上田淳：そうです。理由がわかれば納得できますし、早い方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

上田淳：早く決めてほしいですね。生徒に「どうなるの？」と聞かれても答えられないので、早く決まると教えやすいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

上田淳：食料品が8%で他が10%というのは知っています。消費税が社会保障の財源になっているのも。教員として、消費税の仕組みを授業で扱うこともあるので、制度についてはある程度理解しています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

上田淳：妻が家計を管理していて、食費は月6〜7万円です。子どもが受験期で教育費がかさんでいるので、食費は節約しています。消費税が1%でも下がれば年間で数千円の節約になりますし、その分を教育費に回せます。

M：その情報はどこから？

上田淳：妻から聞いています。あとニュースや職員室での話から。教員同士でも物価の話はよくします。

M：何か実感として感じているものはありますか？

上田淳：物価上昇は実感しています。スーパーでの買い物が高くなっているのを妻が言っています。給食費の値上がりの話も学校で出ています。

M：それについてはどう思いますか？

上田淳：物価が上がって生活が苦しい家庭が増えているのを、学校でも感じています。消費税が少しでも下がれば、そういう家庭の助けになると思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

上田淳：就任前は経済に積極的という印象でした。消費税ゼロの公約は「大きく出たな」と思いましたが、1%案になったのは現実的な修正という感じです。

M：教員のお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

上田淳：教育費の負担軽減が一番気になります。消費税の話は食費が下がれば助かりますが、教育費そのものの負担が大きい。高校の授業料無償化が拡大してくれば、もっと助かります。食料品消費税の話は良い一歩ですが、教育費の問題も合わせて進めてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

上田淳：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由は納得しました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

上田淳：「食料品の消費税 1%、早く始めてください。教育費の負担軽減も合わせて進めてください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

上田淳：食費が下がれば少し楽になりますが、子どもの教育費が家計を一番圧迫しています。消費税の引き下げと教育費の軽減を合わせて進めてほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

上田淳：します。妻は「食費が下がれば助かる」と言っていました。私が教育費の話をするとな「来年の受験が心配」と言っています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

上田淳：「1%案の理由がわかった、食費も教育費も早く楽にしてほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

上田淳：レジシステムの理由を聞いて、1%で早く始まる方が合理的だとわかりました。食費が少し下がれば助かりますし、教育費の問題も合わせて解決してほしいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

上田淳：今日のレジシステムの話は、授業でも使えそうな内容でした。「なぜゼロでなく 1%なのか」という問いに答えられる説明があることは大事だと思います。政策には必ず理由があるということを生徒に伝えたいです。

M：ありがとうございました。

No.51 「1%でも早く始まってほしい」――3 人の育ち盛りの食費に毎日頭を悩ませる 34 歳専業主婦

対象者プロフィール

氏名	望月 雪子
居住地	埼玉県さいたま市
年齢・性別	34 歳・女性
職業	専業主婦
家族構成	夫（会社員）・子 3 人（6 歳・4 歳・1 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「毎月食費がかかっているので」「早く始まってほしいです」と述べた。レジシステムの説明に「よくわからなかったけど、そういうことなら仕方ないんですね。1%で半年早く始まるなら、早い方が助かります」と応じた。

推論：レジシステムの説明を技術的に理解するのではなく「そういうことなら仕方ない」という受け入れ方をしている。評価の根拠が常に「毎月の食費」に帰着しており、政策論よりも家計の実感が判断の全てを占めている。「仕方ない」という表現が、理解の深さより納得の感触を示している。

FD：望月にとって消費税 1%案への賛成は「3 人の子どもの食費が毎月大変」という一点から来ている。レジシステムの説明への反応が「仕方ない」という受け入れ方であることから、論理的な理解より感情的な納得が判断の軸になっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税の仕組みとか財源とか、難しい話はよくわかりませんが、食べ物の税金が下がれば家計が助かるとはわかります」と述べた。「食材が高くなっているのは毎日実感しています。同じものを買っても高くなって、量を減らしたり安いものに替えたりして節約しています」と語った。

推論：消費税への知識は限定的だが、食費への影響は自分で計算して把握している。「年間 1 万円以上違う」という計算は家計管理の実践から来ており、政策論の理解とは別の生活知がある。量を減らし安いものに替えるという具体的な節約行動が、物価上昇の切実さを示している。

FD：望月における消費税は「難しいことはわからないが、食費が下がれば助かるとは確実にわかる」という純粋な生活実感だ。専業主婦として毎日食費と向き合う中で、消費税 1%の変化を年間 1 万円という金額として具体的に把握している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の消費税 1%、早く始めてください。子育て支援もよろしくお願いします」がメッセージだと答えた。「子育て中の家庭のことを考えてくれているんだ」と就任当初に感じたとも述べた。

推論：高市への評価が「子育て中の家庭のことを考えてくれている」という好感から出発している。食料品消費税と子育て支援という二つの要求が、どちらも子育て家庭への支援という一つの文脈で語られている。

FD：望月の高市評価は「子育て家庭への思いやりを感じる」という好感を基盤に、食費 1%と子育て支援という二つの要求が並立している。政策論よりも「自分たちのことを考えてくれているか」という感情的な評価軸が中心だ。

【全体総括】

根拠：「1%でも早く始まってほしい」と締めた。「3 人の子どもの食費が本当に大変なので」と述べた。

推論：望月を貫く行動原理は「3 人の子どもの食費という生活の重さが全ての判断の中心にある」だ。政策の複雑な議論よりも「早く始まれば食費が助かる」というシンプルな評価軸が一貫している。

FD：望月雪子の特徴づけるのは「政策の難しい話はわからないが、3 人の子どもの食費という毎日の重さから 1%でも早く始まってほしいと切実に願う 34 歳専業主婦」だ。「食材が高くなって量を減らしたり安いものに替えたりして節約しています」という言葉に、物価上昇の実態が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話いただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

望月雪子：専業主婦で子どもが 3 人いて、一番上が 6 歳、真ん中が 4 歳、一番下がまだ 1 歳です。毎日が子育てで精いっぱい、食費をどう節約するかをいつも考えています。夫の収入だけで 5 人分の生活費をやりくりしているので、物価が上がっているのが本当につらいです。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

望月雪子：何となく聞いたことはあります。食べ物の税金が下がるかもしれないという話ですね。正直、難しい話はよくわからないですが、下がれば助かるなとは思っています。

M：知っていることを教えてください。

望月雪子：高市総理がゼロにするって言っていたんですよね。でもなかなか難しいということで、1%になるかもしれないということですかね。

M：ご家庭の食費という観点からはどうですか？

望月雪子：子どもが3人いるので食費がかなりかかります。月10万円以上は食費だけでかかっていると思います。少しでも安くなれば、本当に助かります。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

望月雪子：嬉しいという気持ちがあります。毎日スーパーで食材を買いながら「高いな」と思っているんで、少しでも下がれば違います。

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

望月雪子：ゼロが良かったですが、1%でも下がるなら助かります。3人の子どもの食費は本当に大変なので。

M：なぜそう思いますか？

望月雪子：毎月の食費が一番の悩みで、少しでも安くなれば他のことに使えます。子どもの服とか靴とかも必要なので。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

望月雪子：覚えています。「ゼロになるの！」と思って嬉しかったです。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

望月雪子：ちょっと残念でした。ゼロが良かったので。でも1%でも下がるなら助かります。

M：1%になったとしたら評価しますか？

望月雪子：はい、下がるなら評価します。

M：0にできない理由について知りたいですか？

望月雪子：知りたいです。なぜゼロじゃないのか気になります。

M：なぜ1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

望月雪子：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約1年かかるためです。0%だと1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

望月雪子：スーパーのレジが変わらないといけないんですね。それで時間がかかるということか。よくわからなかったけど、そういうことなら仕方ないんですね。1%で半年早く始まるなら、早い方が助かります。毎月食費がかかっているのです。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

望月雪子：そうです。早く始まってほしいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

望月雪子：早く決めてほしいです。毎月食費のことで頭を悩ませているので、早く決まれば計画が立てられます。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

望月雪子：食料品が8%で、お酒とか日用品は10%というのはなんとなく知っています。スーパーでレシートを見ると違うのがわかるので。消費税の仕組みとか財源とか、難しい話はよくわかりませんが、食べ物の税金が下がれば家計が助かるとはわかります。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

望月雪子：子どもが3人いて5人家族なので、食費が本当に大変です。月10万円以上はかかっていると思います。消費税が1%でも下がれば、年間で1万円以上違ってきますよね。それはかなり大きいです。

M：その情報はどこから？

望月雪子：自分で計算しました。食費を毎月管理しているので、1%の違いがいくらになるかは計算できます。

M：何か実感として感じているものはありますか？

望月雪子：食材が高くなっているのは毎日実感しています。同じものを買っても高くなって、量を減らしたり安いものに替えたりして節約しています。

M：それについてはどう思いますか？

望月雪子：本当につらいです。子どもが3人いて全員育ち盛りになってきているので、これからもっと食費がかかると思うと心配です。消費税が少しでも下がれば助かります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

望月雪子：就任前はあまり知らなかったですが、食料品の消費税ゼロの話を聞いて「子育て中の家庭のことを考えてくれているんだ」と思いました。1%案になったのはちょっと残念ですが、それでも下がるなら良いことだと思います。

M：専業主婦として3人のお子さんを育てていらっしゃるお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

望月雪子：子育て支援が一番気になります。食費が下がることも嬉しいですが、保育園の費用とか、子育て全般の支援をもっと充実させてほしいです。消費税の話は良い一歩ですが、子育て支援全体を進めてほしいと思います。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

望月雪子：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、なぜ1%なのかがわかって納得しました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

望月雪子：「食料品の消費税1%、早く始めてください。子育て支援もよろしくお願いします」ですね。

M：なぜそう言いたいのですか？

望月雪子：食費が少しでも下がれば毎月の家計が楽になります。子育て支援も合わせて充実してくれば、3人の子どもを育てる中でもっと助かります。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

望月雪子：します。夫は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。政策の話は夫の方が詳しいですが、家計への影響は私の方が気になっています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

望月雪子：「1%でも早く始まってほしい」ですね。

M：なぜそう思いますか？

望月雪子：スーパーのレジの話聞いて、なぜ1%なのかわかりました。半年でも早く始まる方が、毎月の食費が助かります。3人の子どもの食費が本当に大変なので。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

望月雪子：今日は難しい話でわからないこともありましたが、レジの話はわかりやすかったです。食料品の消費税が1%でも早く下がってほしいです。子育てしているとお金のことばかり気になるので、少しでも助かると嬉しいです。

M：ありがとうございました。

No.52 「やっぱりシステムの問題だった、1%で早く決めて告知してほしい」——消費税実務を毎日扱う 39 歳経理職

対象者プロフィール

氏名	北川 千晴
居住地	埼玉県越谷市
年齢・性別	39 歳・女性
職業	会社員（正職員・経理）
家族構成	夫（会社員）・子 1 人（8 歳）
政治関心/知識	高／高

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「税率が変わるたびにシステム改修の確認や帳票の修正など、とにかく手間がかかります」と述べた。レジシステムの説明に「やっぱりシステムの問題でしたか。経理として、税率変更のシステム対応がどれだけ大変かはよくわかります」と応じた。

推論：「やっぱり」という言葉が、経理として予測していた理由が当たったことへの納得感を示している。生活者と経理担当の二つの視点が始終同時に走っており、「今日は家庭の食費の話ですよね」と自分で整理して生活者目線に切り替える場面が印象的だ。

FD：北川にとって消費税 1%案への賛成は「生活者として食費が助かる」と「経理として合理的な理由がわかった」という二層の納得から来ている。税率変更のシステム対応を日常的に担う立場からレジシステムの説明への完全な共感が生まれた。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税の仕組みは経理として熟知しています。軽減税率の区分から申告・納付の仕組みまで」と述べた。「消費税の財源が下がると社会保障への影響が気になります。財源とのセットで考えてほしいとは思いますが、生活者として食費が下がることは助かります」と語った。

推論：消費税への知識は実務レベルで高く、財源問題まで意識している。しかし「生活者として助かる」という評価が財源への懸念より優先されており、実務知識が逆に賛成を妨げない整理ができている。

FD：北川における消費税は「経理として制度を熟知しながら、生活者として下がれば助かるという評価を優先する」という構造だ。財源への懸念はあるが、それより食費節約という生活実感が判断の軸になっている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品 1%案は賛成です。実施時期を早く確定して、経理が準備できるよう早めに告知してください」がメッセージだと答えた。

推論：「経理が準備できるよう」という表現が、個人の立場を超えた現場実務者としての要求を示している。政策の方向性への賛成と、実施プロセスへの現場からの要求が両立している。

FD：北川の高市評価は「1%案は賛成、実施時期の早期確定と告知を」という賛成+実務要求の構造だ。経理として準備期間が必要という現場の論理が、「早く決めて告知して」という具体的な要求を生んでいる。

【全体総括】

根拠：「やっぱりシステムの問題だった、早く決めて早めに告知してほしい」と締めた。「経理として完全に納得しました」と述べた。

推論：北川を貫く行動原理は「消費税を生活者と経理担当の両方の立場から評価し、どちらの立場からでも「早く決めて告知してほしい」という同じ結論に至る」だ。二つの立場が異なるが要求が収束している点が特徴的だ。

FD：北川千晴を特徴づけるのは「消費税実務を毎日扱う経理職として、レジシステムの理由に『やっぱり』と完全納得し、生活者と経理担当の両方の立場から早期決定・告知を求める 39 歳」だ。「経理として完全に納得しました」という言葉に、実務者としての専門的な確認が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

北川千晴：会社で経理を担当しています。消費税の実務を毎日扱っているので、税率が変わるたびにシステム改修の確認や帳票の修正など、とにかく手間がかかります。共働きで子どもが 8 歳いるので、家計も毎月チェックしています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

北川千晴：もちろん知っています。高市総理の食料品消費税ゼロの公約も、最近の 1%案も把握しています。経理として税率変更の影響は常に気にしているので。

M：知っていることを教えてください。

北川千晴：ゼロという大きな公約が出て、現実的な 1%案に落ち着いてきているということですね。経理として、税率変更のたびに現場の対応が大変なので、1%でも変わると仕事が増えるのは正直なところですよ。ただ今日は家庭の食費の話ですよ。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

北川千晴：共働きで世帯年収は 940 万くらいなので、食費への影響はそれほど大きくないですが、子どもがいるので月 6〜7 万円はかかります。消費税が下がれば助かりますね。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

北川千晴：生活者として食費が下がれば助かると思いますが、経理として「また対応が必要だ」という気持ちが同時に出てきました。

M：今日は家庭の食費という観点でお聞きしています。食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、生活者としてどう思いますか？

北川千晴：生活者としては歓迎します。方向性は良いと思います。

M：なぜそう思いますか？

北川千晴：食費が少しでも下がれば、子どもの習い事や貯蓄に回せます。家計的には助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

北川千晴：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

北川千晴：驚かないですね。経理として、ゼロは実装が大変だろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

北川千晴：生活者として評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

北川千晴：知りたいです。理由次第で納得感が全然違うので。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

北川千晴：知らないです。経理システムの問題ではないかとは思っていましたが。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

北川千晴：やっぱりシステムの問題でしたか。経理として、税率変更のシステム対応がどれだけ大変かはよくわかります。全国のスーパーのレジを一斉に変えとなれば、確かに 1 年はかかりますよね。1%で半年早く実現できるなら、その方が合理的です。早く始まった方が生活者として助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

北川千晴：そうです。理由がわかれば納得できます。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

北川千晴：早く決めてほしいですね。経理として、決まれば準備を始めたいので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

北川千晴：消費税の仕組みは経理として熟知しています。軽減税率の区分から申告・納付の仕組みまで。食料品が8%で他が10%というのはもちろん、その判定が複雑なケースも日常的に扱っています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

北川千晴：子どもと三人家族で食費は月6〜7万円です。共働きなので家計的には安定していますが、消費税が1%でも下がれば年間で数千円の節約になりますし、積み重ねで助かります。

M：その情報はどこから？

北川千晴：自分で計算しています。経理なので数字には敏感で。ニュースも追っています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

北川千晴：物価上昇は感じています。同じものを買っても値段が上がっているのはスーパーで実感します。

M：それについてはどう思いますか？

北川千晴：消費税が下がれば少し助かります。ただ経理として、消費税の財源が下がると社会保障への影響が気になります。財源とのセットで考えてほしいとは思いますが、生活者として食費が下がることは助かります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

北川千晴：就任前は経済に積極的という印象でした。消費税ゼロの公約は経理として「実装が大変になるな」と思いましたが、1%案になったのは現実的な修正という感じです。

M：経理のお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

北川千晴：税制変更の告知時期が気になります。税率が変わると経理システムの改修や社内手続きの変更が必要なので、早めの告知がないと対応が追い付かないです。消費税の話は生活者として歓迎しますが、実施時期の確定と早めの告知をお願いしたいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

北川千晴：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由は完全に納得しました。経理として理解できる説明でした。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

北川千晴：「食料品 1%案は賛成です。実施時期を早く確定して、経理が準備できるよう早めに告知してください」ですね。

M：なぜそう言いたいのですか？

北川千晴：生活者として食費が下がれば助かりますし、経理として準備期間が必要なので。理由がわかったなら、あとは早く決定・告知してほしいです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

北川千晴：します。夫は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。私が経理の話をする「また仕事が増えるね」と言われましたが。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

北川千晴：「やっぱりシステムの問題だった、早く決めて早めに告知してほしい」ですね。

M：なぜそう思いますか？

北川千晴：レジシステムの理由を聞いて、経理として完全に納得しました。生活者として 1%でも早く始まってほしいですし、経理として決定を早く教えてほしいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

北川千晴：今日のレジシステムの話は、経理として「やっぱり」という納得感がありました。1%案は合理的だと思います。早く決まって、早く告知してくれれば、現場の対応もスムーズになります。

M：ありがとうございました。

No.53 「食べ盛りの子2人を抱える今の時期にゼロより1%で半年早く食費が下がる方が助かる——スーパーパートの43歳」

対象者プロフィール

氏名	木村 幸
居住地	埼玉県川越市
年齢・性別	43歳・女性
職業	パート（スーパー）
家族構成	夫（工場勤務）・子2人（14歳・11歳）
政治関心/知識	低/低

3分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「14歳と11歳の子どもがいる今の時期に早く食費が下がってほしいので、1%で半年早く始まる方が助かります」と述べた。職場での話題として「ゼロは難しいんじゃないか」という声も引用した。

推論：14歳・11歳という食べ盛りの子どもの存在が「今の時期に早く」という動機の根拠になっている。スーパーパートで日々現場にいることが「ゼロは難しい」という現実感覚を早い段階から持たせており、1%案への移行をなめらかに受け入れた。

FD：木村にとって消費税1%案への賛成は、食べ盛りの14歳・11歳の子育て家庭として今すぐ食費が少し下がってほしいという動機から来ている。職場での話題がゼロへの期待を早い段階で現実的に修正しており、1%案への納得がスムーズだった。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月8～9万円の食費で、1%になれば年間6～7万円くらい違う。子どもが育ち盛りで食費がかかる時期に、それだけ浮けば助かります」と述べた。職場の同僚も「食費が下がれば助かる」と言っているという情報も語った。

推論：スーパーパートとして日々現場で物価変動を感じているが、発言はあくまで家計の買い物側の立場として語られた。同僚との共感が「みんな同じ」という認識を形成しており、消費税節約への動機を補強している。

FD：木村における消費税は「育ち盛りの子2人に食費がかかる今の時期の、実感のある家計課題」として語られる。毎日スーパーで物価変動を見ている立場からの実感と、家計の買い物担当としての実感が重なっている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「来年上の子が高校受験なので、高校や大学の費用がこれからかかってくる。食費が少し下がるのは助かりますが、教育費の方が今は心配が大きいです」と述べた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への好意的受け入れだが、受験というタイムラインが見えている教育費の方が「今は心配が大きいです」という言葉で前景化している。消費税節約が「部分的な助け」として相対化されている。

FD：木村の高市評価は「食費が下がるのは助かる、でも来年の受験を控えた教育費の方が今は心配」という子育て世帯の母としての正直な優先順位だ。消費税節約が、より大きな教育費課題の前で相対化されている。

【全体総括】

根拠：「食べ盛りの子2人がいる今の時期に、ゼロより1%で半年早く食費が下がる方が助かる」と締めた。「14歳と11歳の子どもが食べるようになってきている食費がかかる時期」という言葉が評価の根拠を示している。

推論：木村を貫く行動原理は「食べ盛りの14歳・11歳の子育て家庭として、今の時期に食費が早く下がることを求め、ゼロより半年早い1%を実利として支持する」だ。スーパーパートとして物価変動を肌で知っている感覚と、家計の食費担当としての感覚が一致している。

FD：木村幸を特徴づけるのは「スーパーパートとして毎日物価変動を体感しながら、14歳・11歳の食べ盛りの子どもの食費という家計課題として消費税を語り、職場の現実感覚とも合わせてゼロより半年早い1%を選んだ43歳」だ。「食べ盛りの子2人がいる今の時期」という言葉に、子育てのステージと家計感覚が一致した動機が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

木村幸：スーパーでパートをしています。夫と子どもが二人、14歳と11歳です。川越に住んでいます。子どもが大きくなってきて食費がかかるようになって、夫の工場の給料だけでは厳しいのでパートに出ています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

木村幸：知っています。食べ物の消費税がゼロになるとか、最近は1%になるという話ですね。職場でも話題になっています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

木村幸：食費は月 8～9 万円くらいかかっています。14 歳の息子がよく食べるようになってきて、前より食費が増えています。物価も上がっているのも、同じものが高くなっています。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

木村幸：助かります。家計として食費が少し下がれば、子どもの習い事代とかに回せます。8%より 1%の方がずっとありがたいです。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

木村幸：覚えています。ゼロになったら良かったと思いますよ。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

木村幸：少し残念でしたが、驚かなかったです。職場でも「ゼロは難しいんじゃないか」という話が出ていましたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

木村幸：評価します。下がることには変わらないので。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

木村幸：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

木村幸：そうなんですね。確かに、レジのシステムを変えるのは大変なんだと思います。家計として、1%で半年早く始まる方が助かります。14 歳と 11 歳の子どもがいる今の時期に早く食費が下がってほしいので。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

木村幸：そうですね。早い方がいいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

木村幸：早く決まってほしいです。家計の計画が立てやすくなるので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

木村幸：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。毎日スーパーで買い物をしているので、レシートで確認しています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

木村幸：月 8～9 万円かかっています。1%になれば年間で 6～7 万円くらい違いますよね。子どもが育ち盛りで食費がかかる時期に、それだけ浮けば助かります。

M：その情報はどこから？

木村幸：ニュースで見たり、職場の同僚と話したりです。みんな同じように「食費が下がれば助かる」と言っています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

木村幸：物価が上がっているのはよく感じています。同じものが前より高くなっているのは日々わかります。子どもが食べるようになってきて食費自体も増えているので、消費税が下がれば少し楽になります。

M：それについてはどう思いますか？

木村幸：少しでも食費が下がれば助かります。子どもたちの食費が今一番かかっている時期なので。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

木村幸：就任してから「女性の総理」という印象でした。食料品の消費税の話は家計として良い方向だと思います。

M：14 歳と 11 歳のお子さんを持つ母親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

木村幸：子どもの教育費がどうなるかは気になります。14 歳の上の子が来年高校受験なので、高校や大学の費用がこれからかかってくるんです。食費が少し下がるのは助かりますが、教育費の方が今は心配が大きいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

木村幸：方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

木村幸：「食費が少し下がれば本当に助かります。1%でも早く始めてください。子どもの教育費の支援も考えてほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

木村幸：夫の給料だけでは厳しくてパートに出ているんですが、それでも子どもの受験費用や大学の費用が心配です。食費が少しでも下がれば、その分を教育費に回せます。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

木村幸：します。夫も「食費が下がれば助かるな」と言っています。家計のことはよく話し合います。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

木村幸：「食べ盛りの子2人がある今の時期に、ゼロより1%で半年早く食費が下がる方が助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

木村幸：14歳と11歳の子どもが食べるようになってきていて、食費がかかる時期です。システムの問題で半年早く始まるなら、1%の方が家計には良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

木村幸：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く決まってほしいです。

M：ありがとうございました。

No.54 「1%で早く始まれば、もっと必要な人に届く」——消費税変化を生活で感じない 30 歳共働き女性

対象者プロフィール

氏名	坂井 里恵
居住地	埼玉県所沢市
年齢・性別	30 歳・女性
職業	会社員（正職員）
家族構成	夫（IT 企業）・子なし
政治関心/知識	低/低

3 ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「うちへの影響はそこまで大きくないな」と述べた。レジシステムの説明に「えっ、レジのシステムの問題なんですか。財政的な理由かと思っていたので、意外でした。1%で半年早く実現できるなら、その方が良いと思います」と応じた。

推論：「意外でした」という発言から、レジシステムという理由への予想外の驚きがある。財政問題ではないとわかったことへの安堵より、単純に「知らなかった」という驚きが先行している。生活への影響が小さいため、政策評価が自分ごとではなく「他者への恩恵」という視点で行われている。

FD：坂井にとって消費税 1%案への評価は「うちへの影響は小さいが、必要な人に早く届く方が良い」という他者視点の賛成だ。自分の生活への当事者感が薄いことで、政策論として客観的に評価できている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税が 1%下がっても年間で数百円から千円程度の差なので、正直あまり実感はないですね。もっと食費が多い家庭には意味があると思いますが」と述べた。

推論：食費への影響を自分で計算しており、具体的な金額としての小ささを把握している。「もっと食費が多い家庭には意味がある」という発言が、政策の意義を自分ではなく他者への影響で評価する視点を示している。高収入・子なし・二人暮らしという状況が、当事者感を薄くしている。

FD：坂井における消費税は「自分への影響が計算上も体感上も小さく、政策の意義を他者への影響として評価する」という距離感がある。消費税議論に当事者感はないが、社会全体への視点はある。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の消費税 1%、早く始めてください。本当に困っている方に早く届くよう進めてほしいです」がメッセージだと答えた。

推論：「本当に困っている方に早く届くよう」という表現が、自分ではなく他者への関心が中心であることを示している。政治への関心は低い、政策の恩恵が誰に届くかという公平性への感覚はある。

FD：坂井の高市評価は「自分への影響は薄い、困っている方に早く届いてほしい」という他者視点の支持だ。政策への距離感が「社会全体として良い方向」という客観的な評価を生んでいる。

【全体総括】

根拠：「レジのシステムの理由は意外だったけど、早く始まれば良いと思います」と締めた。「うちへの影響は小さいですが、早く恩恵が届く方が良いですね」と述べた。

推論：坂井を貫く行動原理は「自分への影響が小さいため、政策評価が他者への恩恵という視点で行われる」だ。生活への当事者感がないことが、逆に政策を客観的に評価する余裕を生んでいる。

FD：坂井里恵を特徴づけるのは「消費税 1%の変化を生活で感じない高収入共働きの 30 歳として、自分ではなく困っている方への早期実現を望む他者視点の賛成者」だ。「もっと食費が多い家庭には意味があると思いますが」という言葉に、当事者感の薄さと他者への関心が同時に現れている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

坂井里恵：夫が IT 企業で私も会社員で、共働きです。子どもはいないので二人暮らしです。生活は特に不自由なくやっています。ただ食費とか日常の出費が高くなっているのはなんとなく感じますね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

坂井里恵：何となく聞いたことはあります。高市総理が食料品の税金をゼロにするって言っていた話ですよ。最近 1%案が出ているというのもニュースで見ました。

M：知っていることを教えてください。

坂井里恵：ゼロにするという話があって、それが 1%に変わってきているということくらいですかね。正直、そこまで詳しくは追っていないんですけど。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

坂井里恵：二人暮らしなので食費はそこまでかからなくて、月 3～4 万円くらいです。消費税が 1%変わっても正直あまり実感はないですが、下がるなら嬉しいです。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

坂井里恵：下がれば嬉しいですが、「うちへの影響はそこまで大きくないな」という感じです。もっと生活が厳しい人たちには大事な話だと思いますが。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

坂井里恵：良い方向だとは思いますが。うちへの影響は小さいですが、下がるに越したことはないですし。

M：なぜそう思いますか？

坂井里恵：子育て中の家庭とか、食費がかかる家庭には助かると思います。うちは今のところ関係は薄いですが、方向性としては良いと思います。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

坂井里恵：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

坂井里恵：「そうなるか」という感じです。大きな公約が変わるのはよくあることで。

M：1%になったとしたら評価しますか？

坂井里恵：評価しますよ、方向性は良いと思います。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

坂井里恵：知りたいですね。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

坂井里恵：知らないです。財政の問題かと思っていました。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

坂井里恵：えっ、レジのシステムの問題なんですか。それは知りませんでした。財政的な理由かと思っていたので、意外でした。ただ言われてみれば、ゼロって特殊ですよ。1%で半年早く実現できるなら、その方が良いと思います。早く恩恵が届いた方が良いですよ。

M：半年早いなら、1%になる方がよいということですか？

坂井里恵：そうですね。理由がわかれば納得できます。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

坂井里恵：早く決めてほしいですね。いつまでも曖昧だと、もやもやしますし。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

坂井里恵：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。消費税が社会保障の財源になっているというの聞いたことはあります。ただそこまで深くは考えていなくて、買い物の際にレシートを見て「ああ、これは 8%か 10%か」という程度です。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

坂井里恵：二人暮らしで食費は月 3～4 万円です。消費税が 1%下がっても年間で数百円から千円程度の差なので、正直あまり実感はないですね。もっと食費が多い家庭には意味があると思いますが。

M：その情報はどこから？

坂井里恵：自分でなんとなく計算しました。ニュースも見ますが、そこまで詳しく追っているわけではないです。

M：何か実感として感じているものはありますか？

坂井里恵：物価が上がっているのは感じます。外食の値段とかが高くなっていますし。ただそれほど家計が厳しいわけではないので、「高くなったな」という程度です。

M：それについてはどう思いますか？

坂井里恵：物価上昇は気になりますが、うちへの影響はそれほど大きくないです。消費税が 1%下がっても同じで、大きな変化は感じないかもしれませんが、良い方向への一歩だとは思いますが。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

坂井里恵：就任前はあまり詳しくなかったですが、食料品の消費税ゼロの公約は「大きいことを言うな」と思いました。1%案になったのはまあそうなるかという感じです。

M：お仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

坂井里恵：正直、自分の生活にどう影響するかが一番気になります。消費税の話はうちへの影響が小さいですが、働き方や給与の問題の方が気になりますね。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

坂井里恵：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由はわかりました。意外な理由でしたが、納得できます。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

坂井里恵：「食料品の消費税 1%、早く始めてください。本当に困っている方に早く届くよう進めてほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

坂井里恵：うちへの影響は小さいですが、子育て中の家庭や生活が苦しい方には大事な話だと思うので。早く届けばその方たちが助かります。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

坂井里恵：たまにします。夫は「食費が下がれば嬉しいけどあまり変わらないよね」と言っていました。二人ともそこまで切実ではないので、話題にはあまりなりません。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

坂井里恵：「レジのシステムの理由は意外だったけど、早く始まれば良いと思います」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

坂井里恵：財政的な理由だと思っていたので、システムの話は意外でした。でも理由がわかれば納得できますし、1%で早く始まる方が良いと思います。うちへの影響は小さいですが、早く恩恵が届く方が良いですね。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

坂井里恵：今日は知らなかったことを教えてもらいました。消費税の話は難しそうだと思っていましたが、レジのシステムの話はわかりやすかったです。生活への影響はそれほど感じませんが、社会全体として良い方向だと思います。

M：ありがとうございました。

No.55 約束を守ってほしい——お弁当屋の47歳が、事業者と消費者の間で見た消費税

対象者プロフィール

氏名	野村 真弓
居住地	熊谷市（埼玉県）
年齢	47歳・女性
職業	自営業（お弁当屋）
世帯年収	約420万
家族構成	夫（農業）・子2人（19歳・17歳）

3分ブリーフィング

【Part 1】根拠：Q1で「お店としてはシステム対応が……」と職業目線で語り始めたが、消費者の立場に引き戻すと「子どもが食べ盛りで家計を助けてほしい」と本音が出た。1%案には「現実的にありがたい」と述べ、システム理由を聞いて「半年早く下がる方が助かる」と評価した。／推論：事業者目線が先に出るが、消費者・生活者としての切実さは別に存在する。問い方次第で二つの顔が現れる。／FD：職業的フィルターの下に、家計への切実な生活者感覚がある。

【Part 2】根拠：「消費税が下がっても食材の値段が下がらないと根本は変わらない」と述べた。仕入れ値上昇でお弁当を値上げした経験から「消費税だけの問題じゃない」という認識がある。情報源は「テレビ」と「常連客との会話」。／推論：消費税を孤立した制度として見ておらず、物価全体の問題として捉えている。事業者経験が消費者としての認識を複眼的にしている。／FD：消費税単独への賛否より「物価・生活全体」の文脈で政策を評価する層。

【Part 3】根拠：高市総理への就任前の認知は低く、就任後「ゼロにする人」というイメージがついた。1%になりそうと聞いて「期待がしぼんだ」が、システム理由を聞いて「事情があるならわかる」と軟化。メッセージは「約束を守ってほしい」で、お店の信頼と政治の信頼を重ねた。夫とは消費税の愚痴止まりで議論はしていない。／推論：評価軸は「約束を守るかどうか」であり、これはお店経営の信頼観と一致している。説明があれば納得できる柔軟性を持つ。／FD：約束と説明責任を重視する層。理由が届けば評価が変わる。

【全体総括】根拠：事業者として制度変更の負担を語りながら、消費者として「シンプルに下げてほしい」と締めた。「生活している人間の声を聞いてほしい」という言葉が核心。／推論：事業者と消費者という二つの立場が混在する中で、最終的に「生活者」としての素直な感情に収束した。政治への不信は固定化されておらず、「説明と約束」があれば動く。／FD：制度の複雑さを体験的に知りながら、感情的には「シンプルに助けてほしい」という純粋な生活者ニーズを持つ。

発言録

【導入】

M：野村さん、今日はお時間いただきありがとうございます。正解・不正解はありませんので、日頃感じていることをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活で気になっていることや、関心があることは何かありますか？

野村真弓：「そうですね.....お弁当屋をやっているのですが、最近は食材の値段が上がって本当に大変で。鶏肉とか卵とか、仕入れ値がじわじわ上がってるのに、お弁当の値段はなかなか上げられなくて。お客さんに「また値上げ？」って思われるのが怖くて。子どもたちも大きくなってきたので、来年以降の学費のこととか、先のことが不安で。夫の農業の方も天候次第で収入が変わるので、安定しなくて。」

【Part 1】食料品消費税の議論への賛否と理由

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？知っていることを教えてください。

野村真弓：「はい、聞いてます。高市さんがゼロにするって言ってたやつですよね。お弁当屋をやってるので、消費税の話は気になって。」

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

野村真弓：「1%に.....。お客さんとしては安くなるのはありがたいと思います。でもお店をやっている立場からすると、また制度が変わるのかっていう気持ちの方が正直大きいです。前に軽減税率が始まった時も、10%になった時も、レジのシステム対応が大変だったの。」

M：お店の話は後でぜひ聞かせてください。まず野村さんご自身が、家で食材を買う立場として、1%という話を聞いてどう感じますか？

野村真弓：「.....あ、そうか。消費者としてですね。それは.....正直ありがたいと思います。うちは子どもが 2 人いて、夫が農業で収入が安定しないので、毎月の食費はできるだけ抑えたい。1%になったら少しでも助かる、というのは本音です。」

M：なぜそう思いますか？

野村真弓：「毎月の食費、けっこうかかっている。お弁当屋をやってるから食材を仕入れる目線で値段を見てしまうんですが、家の買い物でも食材が高くなってるのはひしひし感じて。子どもも高校生と大学生で食べ盛りで。消費税が下がれば、その分家計が少し楽になるかなって。」

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

野村真弓：「システムの問題とか.....？お店をやってるので、なんとなく想像はできますが、詳しくはわかりません。」

M：実は、レジシステムをゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

野村真弓：「.....それはよくわかります。うちも税率変わるたびにシステム対応で苦勞してきたので。でも.....消費者として聞くと、半年早く安くなるなら 1%でも助かると思います。ゼロになるのを 1 年待つより、1%でも半年で下がる方が、毎日の買い物には現実的かなって。」

【Part 2】消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税について、日頃どのような知識や情報をお持ちですか？また、どのようにお考えですか？自由にお話してください。

野村真弓：「消費税.....。お弁当屋をやってるから、仕事上は詳しいつもりなんです。テイクアウトは 8%、店内は 10%って毎日やってるし。でも「なんのために取られてるのか」っていうと、よくわからないというか.....社会保障って言われてるけど、何が良くなったのか実感がなくて。むしろ年々物価が上がって、仕入れも上がって、生活が楽になった感じは全然しないです。」

M：その情報はどこから？

野村真弓：「テレビのニュースで見たり、お客さんとの話だったり。うちのお店、地元の常連さんが多くて、よく「最近高くなったね」って話になるんですよ。みんな物価の話をする。消費税がどうというより「全体的に高い」という感じで話してますね。」

M：実感として感じているものはありますか？

野村真弓：「仕入れの値段が上がった時、お弁当の値段を上げるかどうか、ものすごく悩みました。お客さんに「また値上げ」って思われるのが怖くて。結局少し上げたんですけど、その時に「自分も買い物する立場として、これが続くのはきついな」って思っ。消費税が下がったとしても、食材の値段が下がらないと根本的には変わらないのかな、とも思います。」

M：消費税が下がっても食材の値段が下がらないと変わらない」というのはどういう感覚ですか？

野村真弓：「消費税って、値段に乗っかってくるものじゃないですか。でも最近の値上がりって、消費税関係なく食材そのものが高くなってる。だから消費税 1%になっても、仕入れ値が高いままなら、うちのお弁当は安くできない。お客さんも「消費税下がったのに、なんでお弁当の値段は変わらないの？」って思うかもしれない。そこが怖い。消費税の話だけじゃなくて、物価全体の問題として見てほしいなという気持ちがあります。」

【Part 3】高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

野村真弓：「就任したのは知ってます。女性の総理大臣ってことで、テレビでよく見るようになって。印象.....変わったかな。就任前は正直あまり知らなかったです。名前は聞いたことあるくらいで。就任してからは、消費税ゼロにするって言ってた人というイメージがついて。それが今は 1%になりそうっていう話で、「あ、やっぱり変わるんだな」とは思いましたけど。」

M：その感覚はどこから来ていると思いますか？

野村真弓：「政治家って、選挙の時に言ったことが実現しないことが多い、というイメージがずっとあって。悪く言いたいわけじゃないんですが、「また変わるんだろうな」という感覚が先にくる。高市さんだから特別そう思うというより、政治全体への感覚ですかね。夫も「どうせ変わらん」ってよく言うので、そういう空気が家の中にもあって。」

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

野村真弓：「ゼロにするって言ってくれたのは、最初聞いた時は「本当にしてくれるのかな」って少し期待しました。自分もお店をやってて生活も楽じゃないので。でも 1%になりそういう話を聞いて.....期待が少ししぼんだというか。ゼロじゃないのかって。ただ今日話してシステムの理由があると聞いて、「事情があるならわかる」という気持ちにはなりました。最初から説明してくれれば、もう少し納得できたかな。」

M：今の高市総理に一言メッセージを送るとしたら、何と言いますか？

野村真弓：「.....「約束を守ってほしい」ですかね。ゼロって言ったならゼロにしてほしい。事情があるなら説明してほしい。うちみたいな小さなお店も、子育て中の家庭も、毎日の生活でギリギリやってる人たちのことを、ちゃんと見てほしいです。」

M：約束を守ってほしい」と言いたい理由を教えてください。

野村真弓：「お店をやっていると、お客さんとの信頼がすべてで。「今日もあのお弁当屋に行こう」って思ってもらうのは、毎日の積み重ねなんです。政治家も同じだと思って。言ったことを守らないと、信頼がなくなる。一度なくなった信頼って、なかなか戻らないから。」

【締め】

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

野村真弓：「消費税の話.....たまにしますよ。夫は農業やってるので、食料品の値段には敏感で。「また高くなったな」とか「政治家は何やってるんだ」とか。でも深く議論するというより、愚痴に近い感じで。「どうせ変わらん」って言って終わる、みたいな。今日みたいに、なぜ 1%なのかという理由まで話したことはなかったです。」

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

野村真弓：「「生活している人間の声を聞いてほしい」ですかね。消費税の話って、数字や制度の話になりがちだけど、毎日お弁当を作って、家族のご飯を作って、そういう生活の中に消費税はあるので。そこをわかってほしいな、と。」

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

野村真弓：「今日話してみて、自分がいかにお店目線で消費税を見ていたか、気づきました。消費者としての自分の気持ちを改めて考える機会になりました。1%になったら.....素直に嬉しいと思う。そのくらいシンプルに、下がってほしいです。」

No.56 「財源の問題でないとわかって安心した、1%で早く始めてほしい」――医療財源への影響を案じる 40 歳看護師

対象者プロフィール

氏名	近藤 由美子
居住地	埼玉県さいたま市
年齢・性別	40 歳・女性
職業	看護師（パート）
家族構成	夫（会社員）・子 2 人（12 歳・9 歳）
政治関心/知識	中／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「看護師として、消費税が社会保障の財源になっているので、消費税を下げるのが医療や介護の財源に影響しないかが気になっています」と述べた。レジシステムの説明に「財政的な理由だと思っていたので。財源の削減ではなくシステムの問題なら、看護師として医療財源への心配は少し和らぎます」と応じた。

推論：消費税 1%案への最大の懸念が医療財源への影響だったことが、レジシステムの説明への「安心」という反応から明確になる。「財源ではなくシステムの問題」という確認が、賛成の障壁を取り除いた。生活者としての食費節約と看護師としての財源懸念が同時に走っている。

FD：近藤にとって消費税 1%案への賛成は「財源の問題でないとわかった安心」と「生活者として食費が助かる」の二層から来ている。医療財源への懸念が最大の関心事であり、それが解消されたことで賛成が確定した。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「看護師として、医療や介護の財源と消費税の関係は気になっていて、消費税が下がると医療現場への影響が出ないか心配しています」と述べた。「財源の手当てがちゃんとされていれば、医療への影響も抑えられると思います」と語った。

推論：消費税の財源機能への理解が看護師として高い。「財源の手当てがあれば医療への影響も抑えられる」という発言が、消費税削減を条件付きで評価する構造を示している。生活者視点と医療従事者視点が並走しながら、条件付きの賛成に至っている。

FD：近藤における消費税は「家庭では節約の問題、医療現場では財源問題」という二重の意味を持つ。財源への条件付き賛成という立場が、単純な賛成・反対と異なる複雑な評価を生んでいる。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品 1%案は良い方向です。財源の手当てを医療・介護に影響しないよう合わせて進めてください」がメッセージだと答えた。

推論：消費税 1%案への賛成と、医療・介護財源の手当てという条件が並立している。「システムの問題とわかって安心しました」という発言が、財源懸念の解消が評価の前提になっていることを示している。

FD：近藤の高市評価は「1%案の方向性は良いが、医療・介護財源への手当てを同時に進めてほしい」という条件付き支持だ。看護師として財源と医療の質の関係を日常的に経験しているからこそ、消費税削減を財源問題として評価する視点がある。

【全体総括】

根拠：「財源の問題でないとわかって安心した、早く 1%を実現してほしい」と締めた。「システムの問題とわかったのは重要でした」と述べた。

推論：近藤を貫く行動原理は「消費税削減の財源影響が医療に波及しないかを先に確認してから、生活者として賛成する」だ。財源の確認が賛成の前提条件になっており、それが解消されたことで「早く実現してほしい」という賛成に至っている。

FD：近藤由美子の特徴づけるのは「医療財源への影響を最大の懸念として持ちながら、レジシテムの理由に財源問題でないとわかって安心し、生活者として 1%案に賛成する 40 歳看護師」だ。「財源の問題でないとわかって安心した」という言葉に、看護師としての財源への緊張感が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

近藤由美子：看護師でパートをしています。夫が会社員で、子どもが 12 歳と 9 歳で二人います。医療現場で働いていると、財源と医療の質の関係をよく感じるんですね。消費税が医療の財源に影響するという話は気になっています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

近藤由美子：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を掲げていたのも、最近 1%案が出ているのも把握しています。

M：知っていることを教えてください。

近藤由美子：ゼロという公約が出て、それが1%案になってきているということですね。看護師として、消費税が社会保障の財源になっているので、消費税を下げるのが医療や介護の財源に影響しないかが気になっています。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

近藤由美子：子どもが二人いて、食費は月6～7万円くらいです。消費税が1%でも下がれば助かりますね。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

近藤由美子：生活者として食費が下がれば助かると思いますが、看護師として「医療の財源への影響は大丈夫なのかな」という心配が出てきました。

M：今日は家庭の食費という観点でお聞きしています。食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、生活者としてどう思いますか？

近藤由美子：生活者としては、1%でも下がれば助かります。ゼロの方が良かったですが、1%でも方向性は良いと思います。

M：なぜそう思いますか？

近藤由美子：子どもの食費がかかる時期なので、少しでも下がれば助かります。ただ財源の手当てがどうなるかも気になります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

近藤由美子：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

近藤由美子：「まあそうなるか」という感じです。ゼロは財政的に難しいと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

近藤由美子：方向性は評価します。ただ財源の問題が気になります。

M：0にできない理由について知りたいですか？

近藤由美子：ぜひ知りたいです。財源の問題なのか別の理由なのかで、受け止め方が変わるので。

M：なぜ1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

近藤由美子：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約1年かかるためです。0%だと1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

近藤由美子：システムの問題なんですね。それは意外でした。財政的な理由だと思っていたので。財源の削減ではなくシステムの問題なら、看護師として医療財源への心配は少し和らぎます。1%で半年早く実現できるなら、生活者として早い方が助かりますし、財源への影響も1%分で済むなら良かったと思います。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

近藤由美子：そうです。財源の問題でないことがわかったなら、早く始まる方が良いです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

近藤由美子：早く決めてほしいですね。財源の手当てがどうなるかも含めて、早く説明してほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

近藤由美子：食料品が8%で他が10%というのは知っています。消費税が社会保障の財源になっているというのをも把握しています。看護師として、医療や介護の財源と消費税の関係は気になっていて、消費税が下がると医療現場への影響が出ないか心配しています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

近藤由美子：子どもが二人いて食費は月6〜7万円です。消費税が1%でも下がれば年間で数千円の節約になりますし、助かります。

M：その情報はどこから？

近藤由美子：自分で計算しています。あとニュースや職場の情報から。看護師仲間でも物価や生活の話はよくします。

M：何か実感として感じているものはありますか？

近藤由美子：物価上昇は実感しています。食材が高くなっているのもそうですし、医療現場でも材料費の高騰の話が出ています。

M：それについてはどう思いますか？

近藤由美子：物価と消費税が重なって生活が大変になっているのは感じます。消費税が1%でも下がれば助かりますし、財源の手当てがちゃんとされていれば、医療への影響も抑えられると思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

近藤由美子：就任前は経済に積極的という印象でした。消費税ゼロの公約は「大きく出たな」と思いましたが、財源への影響が心配でした。1%案になったのは現実的な修正だと思いますし、今日の理由を聞いて財源ではなくシステムの問題とわかったのは良かったです。

M：看護師のお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

近藤由美子：医療・介護の財源確保が一番気になります。消費税が下がることは生活者として歓迎しますが、その分の財源をどう手当てするかが大事だと思っています。医療現場で財源と医療の質の関係をよく見ているので。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

近藤由美子：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、財源ではなく技術的な理由とわかって安心しました。ただ財源の手当ても合わせて説明してほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

近藤由美子：「食料品 1%案は良い方向です。財源の手当てを医療・介護に影響しないよう合わせて進めてください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

近藤由美子：生活者として食費が下がれば助かりますし、看護師として医療財源への影響を心配しているので。システムの問題とわかって安心しましたが、財源の手当ても合わせて進めてほしいです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

近藤由美子：します。夫は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。私が医療の財源の話をする「難しいね」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

近藤由美子：「財源の問題でないとわかって安心した、早く 1%を実現してほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

近藤由美子：レジシステムの理由を聞いて、財源への影響でないとわかって安心しました。生活者として 1%でも早く始まってほしいですし、医療財源への影響も小さく済むなら良かったと思います。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

近藤由美子：今日の話で消費税 1%案の理由がわかりました。財源ではなくシステムの問題とわかったのは重要でした。食費が下がることは助かりますし、医療・介護の財源の手当ても合わせて進めてほしいです。

M：ありがとうございました。

No.57 「毎日買い物する専業主婦として、ゼロより 1%で半年早く食費が下がってほしい——5 歳 2 歳を育てる 35 歳」

対象者プロフィール

氏名	今井 順子
居住地	埼玉県草加市
年齢・性別	35 歳・女性
職業	専業主婦
家族構成	夫（会社員）・子 2 人（5 歳・2 歳）
政治関心/知識	低/低

3 ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「5 歳と 2 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしいので、1%で半年早く始まる方が助かります」と述べた。「夫一人の稼ぎで子ども 2 人を育てているので、少しの節約でも嬉しい」と語った。

推論：5 歳・2 歳の子どもと夫一人の収入という家計の状況が「少しの節約でも嬉しい」という動機の根拠になっている。専業主婦として毎日買い物を担っているという立場が、食費節約を日常の生活感覚として語らせている。

FD：今井にとって消費税 1%案への賛成は、夫一人の収入で 5 歳・2 歳の子どもを育てる専業主婦として、毎日の食費節約が積み重なって家計が楽になるという日常の生活感覚から来ている。「少しの節約でも嬉しい」という言葉に、家計の余裕のなさが素直に出ている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月 6～7 万円の食費で、1%になれば年間 5 万円くらい違う。夫一人の収入で家計をやりくりしているので、その節約は助かります」と述べた。

推論：節約額を「年間 5 万円」として語ることで、毎月の積み重ねとして実感している。「毎日買い物をしているので、細かい値段の変化が気になります」という言葉に、専業主婦として物価変動を日常で体感していることが出ている。

FD：今井における消費税は「毎日の買い物を通じて体感している物価変動の中の、積み重なって意味のある家計の助け」として語られる。細かい値段変化への感度の高さが、消費税節約への現実的な実感を支えている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「子育て支援がどうなるかは気になります。保育料とか幼稚園の費用とか、小さい子どもがいると出費が多いので」と述べた。「食費の消費税が下がるのはありがたいですが、子育て支援全体が充実してほしい」と続けた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への受け入れだが、保育料・幼稚園費用という小さな子どもを抱えた今の生活課題が並走している。消費税への賛成が「子育て支援全体」という要求の中に位置づけられている。

FD：今井の高市評価は「食費が下がるのは助かる、子育て支援全体も充実してほしい」という 5 歳・2 歳の子どもを育てる専業主婦としての正直な要求だ。消費税節約が子育て支援という大きな課題の一部として語られている。

【全体総括】

根拠：「毎日の買い物を担っているので、ゼロより 1%で半年早く食費が下がる方が今の生活には嬉しい」と締めた。「5 歳と 2 歳の子どもがいて、毎日の食費がかかっています」という言葉が動機の背景を示している。

推論：今井を貫く行動原理は「専業主婦として毎日の買い物を担い、夫一人の収入で 5 歳・2 歳の子どもを育てる今の生活の中で、食費節約を日常の積み重ねとして実感し、ゼロより半年早い 1%を選ぶ」だ。

FD：今井順子の特徴づけるのは「毎日の買い物を担う専業主婦として、物価変動を日常で体感しながら、夫一人の収入で 5 歳・2 歳の子どもを育てる家計の中で消費税節約を積み重なる助けとして歓迎し、ゼロより半年早い 1%を選んだ 35 歳」だ。「少しの節約でも嬉しいです」という言葉に、毎日の買い物を担う専業主婦の率直な生活感が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

今井順子：専業主婦です。夫と子どもが二人、5 歳と 2 歳です。草加市に住んでいます。下の子がまだ小さくて、上の子も幼稚園なので、毎日買い物と子どもの世話でバタバタしています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

今井順子：知っています。食べ物の消費税がゼロになるとか、最近は 1%になるという話ですね。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

今井順子：食費は月 6～7 万円くらいかかっています。子どもが 2 人いて、上の子がだんだん食べるようになってきたので、前より出費が増えています。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

今井順子：助かります。毎日買い物をしているので、食費が少しでも下がれば家計が楽になります。夫一人の稼ぎで子ども 2 人を育てているので、少しの節約でも嬉しいです。

M：「助かる」というのは、毎月の家計に余裕ができるということですか？

今井順子：そうです。月 6～7 万円の食費で 8%から 1%になれば月 4,000～5,000 円くらい変わります。幼稚園の費用とか、子どもの洋服代とかに使えます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

今井順子：なんとなく覚えています。ゼロになったら嬉しかったなと思います。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

今井順子：少し残念ですが、驚かなかったです。何か事情があるんだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

今井順子：評価します。8%より全然いいです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

今井順子：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

今井順子：そういう理由なんですね。確かに全国のスーパーのレジを変えるのは大変そうです。5 歳と 2 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしいので、1%で半年早く始まる方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

今井順子：そうですね。早い方が嬉しいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

今井順子：早く決まってほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

今井順子：食料品が8%で他が10%というのは知っています。スーパーのレシートを見れば書いてあるので。あまり詳しくはないです。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

今井順子：月6〜7万円かかっています。1%になれば年間で5万円くらい違いますよね。夫一人の収入で家計をやりくりしているので、その節約は助かります。

M：その情報はどこから？

今井順子：ニュースで見ました。夫とも話しています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

今井順子：物価が上がっているのは実感しています。スーパーで同じものが前より高くなっているのがわかります。毎日買い物をしているので、細かい値段の変化が気になります。

M：それについてはどう思いますか？

今井順子：消費税が少しでも下がれば助かります。毎日の買い物代が少し減れば、それが積み重なって家計が楽になります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

今井順子：就任してから「女性の総理が生まれた」という印象でした。食料品の消費税の話は家計として助かります。

M：5歳と2歳のお子さんを育てる専業主婦という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

今井順子：子育て支援がどうなるかは気になります。保育料とか幼稚園の費用とか、小さい子どもがいると出費が多いので。食費の消費税が下がるのはありがたいですが、子育て支援全体が充実してほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

今井順子：方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

今井順子：「毎日買い物をしているので、食費が少し下がれば本当に助かります。1%でも早く始めてください。子育て支援も充実してほしいです」ですね。

M：なぜそう言いたいのですか？

今井順子：専業主婦で毎日買い物をしているので、食費が下がれば毎日の生活が少し楽になります。夫一人の収入で2人の子どもを育てているので、少しの節約でも大事です。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

今井順子：します。夫も「食費が下がれば助かる」と言っています。家計のことはよく二人で話します。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

今井順子：「毎日の買い物を担っているので、ゼロより1%で半年早く食費が下がる方が今の生活には嬉しい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

今井順子：5歳と2歳の子どもがいて、毎日の食費がかかっています。システムの問題で半年早く始まるなら、少しでも早い方が今の生活には良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

今井順子：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.58 「今すぐ始めてほしい、受験費用と食費が重なって今が一番きつい」——子ども3人を育てる46歳パート主婦

対象者プロフィール

氏名	伊藤 弘子
居住地	埼玉県越谷市
年齢・性別	46 歳・女性
職業	パート（事務）
家族構成	夫（会社員）・子3人（17 歳・14 歳・11 歳）
政治関心/知識	中／低

3分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「子どもが三人でみんな育ち盛りなので、食費は月 11～12 万円はかかっています」と述べた。レジシステムの説明に「1%で半年早く始まるなら、絶対早い方が良いです。子どもたちの食費は毎月かかっているの」と応じた。

推論：「絶対早い方が良いです」という表現に、受験費用と食費が重なる現在の切実さが集約されている。「うちはもう限界に近いので」という発言も出ており、100 名の中でも特に切実な状況にある。レジシステムの理由を「仕方ないですね」と即受け入れ、早期実現への要求に一直線に向かう。

FD：伊藤にとって消費税 1%案への賛成は「受験費用と食費が重なって家計が限界の今、1 分でも 1 円でも早く助かりたい」という極めて切実な動機から来ている。政策論や財源への関心よりも、「今が一番きつい」という現在の状況が全ての評価を支配している。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「食費を削れるところまで削っているんですが、それでも毎月ギリギリで」と述べた。「消費税が 1%でも下がれば年間で 1 万円以上違ってくると思いますし、それはかなり助かります」と語った。

推論：消費税への知識は限定的だが、「年間 1 万円以上」という計算は家計管理の実践から来ている。「食費を削れるところまで削っている」という発言が、これ以上の節約余地がない現状を示している。消費税を家計改善の唯一の手段として見ている。

FD：伊藤における消費税は「削れるところまで削った家計の中で、外側から変えられる唯一の手段」だ。節約の限界に来ている中で、消費税 1%案が家計改善への唯一の外部からの助けとして見えている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の消費税 1%、今すぐ始めてください。受験を控えた子どもがいる家庭は本当に大変なんです」がメッセージだと答えた。

推論：「今すぐ始めてください」という要求が他の誰よりも切迫している。「受験を控えた子どもがいる家庭は本当に大変なんです」という訴えに、政策への要求というより生活の窮状の告白という性質がある。

FD：伊藤の高市評価は「1%案に賛成、今すぐ始めてほしい」という最も切迫した支持だ。食費を削り切った限界の状況が、政策評価を「どう思うか」ではなく「今すぐ助けてほしい」という切実な訴えに変えている。

【全体総括】

根拠：「1%でも早く始まってほしい、今が一番きつい時期なので」と締めた。「うちはもう限界に近いので」と述べた。

推論：伊藤を貫く行動原理は「受験費用と食費が重なる今が一番きつい、1%でも早く実現してほしい」という切迫感だ。政策を評価する余裕はなく、「早く、少しでも助かりたい」という生活の切実さが全てを支配している。

FD：伊藤弘子の特徴づけるのは「子ども 3 人の食費と上の子の受験費用が重なる今が家計の限界で、1%でも 1 日でも早く始まってほしいと訴える 46 歳パート主婦」だ。「うちはもう限界に近いので」という言葉に、節約の余地がなくなった家計の窮状が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

伊藤弘子：パートで事務の仕事をしています。子どもが三人いて、17 歳、14 歳、11 歳です。上の子が大学受験を控えているので、受験費用や塾代でとにかくお金がかかっています。夫の収入と私のパート代でやりくりしています。食費も毎月大変ですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

伊藤弘子：聞いたことはあります。食べ物の税金が下がるかもしれないという話ですね。

M：知っていることを教えてください。

伊藤弘子：高市総理がゼロにするって言っていたのが、1%案になってきているということですかね。食費がかかっているので、少しでも下がってほしいと思っています。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

伊藤弘子：子どもが三人でみんな育ち盛りなので、食費は月 11～12 万円はかかっています。本当に大変で、毎日節約を考えています。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

伊藤弘子：嬉しいです。少しでも下がれば違います。毎月こんなに食費がかかっているので、1%でも助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

伊藤弘子：ゼロが良かったですが、1%でも下がるなら助かります。

M：なぜそう思いますか？

伊藤弘子：子どもが三人いて食費が本当にかかるので、少しでも安くなれば助かります。上の子の受験費用も重なっていて、家計がカツカツなので。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

伊藤弘子：覚えています。ゼロになるって聞いた時は「本当に！」と思って喜んでいました。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

伊藤弘子：残念でした。ゼロになってほしかったので。でも 1%でも下がれば助かります。

M：1%になったとしたら評価しますか？

伊藤弘子：評価します。下がるなら何でも助かります。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

伊藤弘子：知りたいです。なぜゼロになれないのか気になっていました。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

伊藤弘子：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

伊藤弘子：スーパーのレジを変えないといけないから時間がかかるんですね。それなら仕方ないですね。1%で半年早く始まるなら、絶対早い方が良いです。半年でも今すぐでも、早く始めてほしいです。子どもたちの食費は毎月かかっているのです。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

伊藤弘子：はい、早ければ早いほど助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

伊藤弘子：早く決めてほしいです。うちはもう限界に近いので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

伊藤弘子：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。スーパーのレシートで確認することがあって。消費税の仕組みとか詳しいことはわかりませんが、食べ物の税金が高いのは毎日感じています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

伊藤弘子：子どもが三人で 11～12 万円かかっています。上の子が大学受験で塾代も重なっているんで、本当に大変です。消費税が 1%でも下がれば年間で 1 万円以上違ってくると思いますし、それはかなり助かります。

M：その情報はどこから？

伊藤弘子：自分で計算しました。食費の金額は毎月把握しているので、1%の違いがどれくらいになるかはすぐわかります。

M：何か実感として感じているものはありますか？

伊藤弘子：食材が高くなっているのは毎日実感しています。同じものを買っても高くなって、節約するために安いものを探すのが毎日の習慣になっています。

M：それについてはどう思いますか？

伊藤弘子：本当につらいです。食費を削れるところまで削っているんですが、それでも毎月ギリギリで。消費税が少しでも下がれば、少し余裕が出ます。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

伊藤弘子：就任前はあまり知らなかったですが、食料品の消費税ゼロの公約を聞いて「この人は庶民の生活を考えてくれているんだ」と思いました。1%案になったのはちょっと残念ですが、それでも頑張ってくれているのかなと思います。

M：お仕事をされながらお子さんを育てているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

伊藤弘子：子育て支援と教育費の負担軽減が一番気になります。食費が少しでも下がれば助かりますが、受験費用や塾代の方が今は大きな問題で。消費税の話と合わせて、教育費の支援も進めてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

伊藤弘子：良い方向だと思います。今日話を聞いて、1%案の理由はわかりました。早く始めてほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

伊藤弘子：「食料品の消費税 1%、今すぐ始めてください。受験を控えた子どもがいる家庭は本当に大変なんです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

伊藤弘子：食費がかかって、受験費用もかかって、本当に毎月ギリギリです。少しでも早く食費が安くなれば、その分を受験費用に回せます。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

伊藤弘子：します。夫も「食費が下がれば少し楽になるね」と言っています。うちは本当にギリギリなので、少しの変化でも大きいんです。

M：今日話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

伊藤弘子：「1%でも早く始まってほしい、今が一番きつい時期なので」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

伊藤弘子：レジの話聞いて、1%で半年早く始まる方が良いとわかりました。今が受験費用と食費が重なって一番大変な時期なので、早く始まってほしいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

伊藤弘子：今日話を聞いて、ゼロでなく 1%の理由がわかりました。子どもが三人いて今が一番お金のかかる時期なので、少しでも早く食費が下がれば助かります。

M：ありがとうございました。

No.59 「1%でも早く始まってほしい、夫の転職直後で今が一番不安定」——インボイスにも追われる 32 歳フリーランス

対象者プロフィール

氏名	吉田 美鈴
居住地	埼玉県川越市
年齢・性別	32 歳・女性
職業	フリーランス（イラストレーター）
家族構成	夫（転職直後・収入不安定）・子なし
政治関心/知識	中／低

3 分フリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「夫が半年前に転職したばかりで、収入がまだ安定していなくて、毎月の生活費がギリギリです。インボイス制度が始まってから事務作業が増えて」と述べた。レジシステムの説明に「インボイス制度で私も会計ソフトの対応が大変だったので、システムを変えるのが大変なのはよくわかります。1%で半年早く始まるなら、早い方が絶対良いです」と応じた。

推論：インボイス制度の苦労がレジシステムの説明への即座の共感を生んでいる。「今の生活がギリギリなので」という状況が「早ければ早いほど助かります」という切実さを生んでいる。夫の転職直後という一時的な収入不安定が、消費税議論を最大限切実なものにしている。

FD：吉田にとって消費税 1%案への賛成は「夫の転職直後の収入不安定とインボイスの負担が重なる今、1%でも早く家計が楽になりたい」という一時的だが極めて切実な動機から来ている。インボイスの苦労がシステムへの共感を生み、早期実現への強い賛成につながっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「フリーランスなので消費税の申告は自分でやっていて、その手続きが大変です。インボイス制度が始まってから事務作業がさらに増えました」と述べた。「食料品の消費税とは別に、フリーランスとして消費税の手続きが煩雑なのが一番の悩みです」と語った。

推論：消費税への関与がフリーランスとして二重になっている。食料品消費税は「下がれば助かる」という単純な賛成だが、インボイスという別の消費税問題が最大の悩みとして並走している。食費月 3 万円という極限の節約が、1%の変化を「数百円でも違う」と実感する状況を生んでいる。

FD：吉田における消費税は「食料品としては助かる問題、フリーランスとしてはインボイスという別の重荷が並走している」という二重の意味を持つ。No.36 石丸真奈と同様の構造だが、夫の転職直後という経済的不安定が切実さをさらに高めている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の消費税 1%、早く始めてください。インボイスの手続きも簡単にしてください」がメッセージだと答えた。

推論：No.36 石丸真奈と同じ二つの要求が出ており、フリーランスという立場から消費税議論に食料品とインボイスの二側面がある構造が共通している。ただし吉田の方が夫の収入不安定という追加の切実さがある。

FD：吉田の高市評価は「食料品 1%は早く、インボイスはシンプルに」という二重の要求だ。フリーランスとして消費税を二つの問題として経験しており、食料品消費税への純粋な賛成とインボイスへの不満が並立している。

【全体総括】

根拠：「1%でも早く始まってほしい、今が一番不安定な時期なので」と締めた。「夫の収入が安定していない今が一番きつい時期なので」と述べた。

推論：吉田を貫く行動原理は「フリーランスのインボイス負担と夫の転職直後の収入不安定が重なる今、消費税 1%案を最大限の切実さで迎えている」だ。状況の一時性（転職直後）があるが、それが今この瞬間の切実さを最高点にしている。

FD：吉田美鈴を特徴づけるのは「インボイスの事務負担とフリーランス収入の不安定さに夫の転職直後の家計危機が重なり、食料品 1%案を今すぐ・早急に望む 32 歳フリーランスイラストレーター」だ。「今の生活がギリギリなので、半年でも早く助かりたいです」という言葉に、複数の困難が重なる今この瞬間の切実さが凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

吉田美鈴：フリーランスでイラストの仕事をしています。夫が半年前に転職したばかりで、収入がまだ安定していなくて、毎月の生活費がギリギリです。インボイス制度が始まってから事務作業が増えて、それもストレスで。家賃と光熱費が高くて、食費は本当にギリギリまで削っています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

吉田美鈴：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を出していたのも、最近 1%案が出ているのも。フリーランスなので消費税はいろいろ気になっています。

M：知っていることを教えてください。

吉田美鈴：ゼロという公約が出て、それが 1%案になってきているということですね。フリーランスとして消費税の申告をしているので、消費税の動向は常に気になっています。食料品の話はシンプルに「下がれば助かる」という気持ちです。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

吉田美鈴：夫と二人暮らしですが、夫の収入が安定していないので食費はかなり削っています。月 3 万円以内に抑えようとしています。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

吉田美鈴：嬉しいです。毎月の生活がギリギリなので、少しでも食費が下がれば違います。ゼロになるって聞いた時は本当に嬉しかったです。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

吉田美鈴：ゼロが良かったですが、1%でも下がれば助かります。

M：なぜそう思いますか？

吉田美鈴：夫の収入が安定していない今は、少しでも固定費が下がれば助かります。食費は削れるだけ削っているので、税率が下がれば同じものがもう少し安く買えます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

吉田美鈴：覚えています。「ゼロになるなら本当に助かる」と思っていました。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

吉田美鈴：残念でした。ゼロが良かったので。でも 1%でも下がるなら助かります。

M：1%になったとしたら評価しますか？

吉田美鈴：評価します。方向性は良いと思います。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

吉田美鈴：知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

吉田美鈴：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

吉田美鈴：レジのシステムの問題なんですね。インボイス制度で私も会計ソフトの対応が大変だったので、システムを変えるのが大変なのはよくわかります。1%で半年早く始まるなら、早い方が絶対良いです。今の生活がギリギリなので、半年でも早く助かりたいです。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

吉田美鈴：そうです。早ければ早いほど助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

吉田美鈴：早く決めてほしいです。夫の収入が安定するまでの間、少しでも家計が楽になれば。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

吉田美鈴：食料品が8%で他が10%というのは知っています。フリーランスなので消費税の申告は自分でやっていて、その手続きが大変です。インボイス制度が始まってから事務作業がさらに増えました。食料品の消費税とは別に、フリーランスとして消費税の手続きが煩雑なのが一番の悩みです。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

吉田美鈴：月3万円以内に抑えようとしています。夫の収入が安定していないので、食費は本当にギリギリです。消費税が1%でも下がれば、月に数百円でも違ってくるので助かります。

M：その情報はどこから？

吉田美鈴：自分で計算しています。毎月の食費をシビアに管理しているので、1%の差がどれくらいになるかはわかります。あとSNSでフリーランス仲間の情報から。

M：何か実感として感じているものはありますか？

吉田美鈴：物価が上がっているのは毎日実感しています。食費を3万円以内に収めるのが前より難しくなっています。

M：それについてはどう思いますか？

吉田美鈴：本当に大変です。インボイスで事務作業が増えて、夫の収入が不安定で、物価も上がって、重なっています。消費税が少しでも下がれば、その分が助かります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

吉田美鈴：就任前は正直あまり知らなかったですが、食料品の消費税ゼロの公約を聞いて「助かる！」と思いました。1%案になったのは残念ですが、それでも下がるなら良いことだと思います。

M：フリーランスのイラストレーターのお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

吉田美鈴：インボイス制度の簡素化が一番気になります。食料品の消費税が下がることは嬉しいですが、インボイスの手続きが本当に大変で。消費税の話をするなら、インボイスの煩雑さも一緒に解決してほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

吉田美鈴：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由はわかりました。インボイスの苦労を思うと、システムの大変さはよくわかります。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

吉田美鈴：「食料品の消費税 1%、早く始めてください。インボイスの手続きも簡単にしてください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

吉田美鈴：夫の収入が安定していない今、食費が少しでも下がれば助かります。インボイスの事務作業も毎月大変なので、そちらも何とかしてほしいです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

吉田美鈴：します。夫は「食費が下がれば少し楽になるね」と言っていました。転職して収入が安定していないので、うちは少しの変化でも大きいんです。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

吉田美鈴：「1%でも早く始まってほしい、今が一番不安定な時期なので」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

吉田美鈴：インボイスの経験からレジシステムの話はよくわかりました。1%で半年早く始まるなら早い方がいい。夫の収入が安定していない今が一番きつい時期なので、少しでも早く食費が下がれば助かります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

吉田美鈴：食料品の消費税の話は嬉しいですが、フリーランスとしてインボイスの問題が一番きついです。消費税の話をするなら、インボイスの煩雑さも合わせて解決してほしいです。今日の話で少し気持ちが整理できました。

M：ありがとうございました。

No.60 「1%案の理由はわかった、早く決めて農業支援も忘れないで」――農家経営の現実を知る 48 歳専業主婦

対象者プロフィール

氏名	池田 幸恵
居住地	埼玉県熊谷市
年齢・性別	48 歳・女性
職業	専業主婦
家族構成	夫（農業）・子 2 人（20 歳・18 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「農業でも補助金の話が出て、実際には全額出なかったりするので、そういうものだと思うて見えています」と述べた。レジシステムの説明に「農業の機械を入れ替えるのも大変ですし、大きなシステムを変えるのは手間がかかるというのはわかります」と応じた。

推論：農業経営の現場から政策への「期待しすぎない」という態度が形成されている。1%への落着きも「やっぱりそうなるか」と即受容しており、政治への過大な期待をしない農村的リアリズムがある。レジシステムの説明は農業機械の入れ替えと同じ文脈で即座に理解した。

FD：池田にとって消費税 1%案への賛成は、農業経営で政策の現実的な着地を経験してきた「期待しすぎない生活者」としての評価だ。「そういうものだ」という受け入れ方が、強い賛成ではなく現実的な歓迎を生んでいる。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「農業の資材や機械には消費税がかかるのに、売る野菜の値段に消費税が乗せにくいという話を聞いたことがあります」と述べた。「農業の費用の方が今は大きな問題だと感じています。ただ今日は家計の食費の話ですよね」と自ら整理した。

推論：夫の農業から消費税の生産者側の問題を知っているが、自分から「今日は家計の話ですよね」と切り替えており、生活者としての視点を自分で制御できる。食費への切実さは子どもが成人して薄れており、「老後の蓄え」という視点に移行している。

FD：池田における消費税は「夫の農業から生産者の苦しさを知りながら、家計として消費者として評価する」という二重の視点を持つ。自ら生活者視点に切り替える判断力があり、切迫感より老後を見据えた余裕ある評価になっている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の 1%案は良いと思います。早く決めて実施してください。農業の支援も忘れないでください」がメッセージだと答えた。

推論：消費税 1%案への賛成と農業支援への要求が並立している。「農業の支援も忘れないで」という言葉が、消費者の賛成を表明しながらも農家の妻としての立場を手放さない姿勢を示している。

FD：池田の高市評価は「1%案は良い、早く実施して農業支援も続けて」という二つの要求が並立する構造だ。食料品消費税への支持は消費者として、農業支援への要求は農家の妻として、それぞれ独立して存在している。

【全体総括】

根拠：「農業でも機械やシステムを変えるのは大変なので、よくわかります」と述べた。「農家の妻として食料品の生産に関わっている立場から見ると、食費が下がることは消費者として嬉しいですが、生産者が大変な中で作っているということも知ってほしい」と締めた。

推論：池田を貫く行動原理は「農業経営の現実から政治への期待を控えめにしながら、消費者として 1%案を現実的に歓迎し、農家としての苦しさも伝えたい」だ。農村的リアリズムが全体を貫いている。

FD：池田幸恵を特徴づけるのは「農業経営の苦しさを夫から日常的に聞きながら、政治への期待を持ちすぎず、1%案を現実的に歓迎する 48 歳農家妻」だ。「農業の機械を入れ替えるのも大変」という農村経験からレジシステムに共感し、消費者と農家妻の両立場から現実的な賛成に至っている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

池田幸恵：夫が農業をやっていて、私は専業主婦です。子どもが二人いますが、上が 20 歳で下が 18 歳でもう大きくなったので、昔よりは少し落ち着きました。ただ農業の方は大変で、野菜の値段が安定しないですし、肥料代や燃料代が上がって、夫が愚痴をこぼすことが増えています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

池田幸恵：聞いたことはあります。食べ物の税金が下がるかもしれないという話ですよね。

M：知っていることを教えてください。

池田幸恵：高市総理がゼロにするって言っていたのが、最近は1%案になってきているということですね。農家として、食料品の値段の話は気になっています。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

池田幸恵：子どもが二人とも大きくなったので、以前と比べると食費は少し落ち着きました。でもやっぱり毎日の食事はかかりますし、物価が上がっているので今も節約は心がけています。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

池田幸恵：下がれば助かりますね。家計としては嬉しい話です。

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

池田幸恵：ゼロの方が良かったですが、1%でも下がれば助かります。

M：なぜそう思いますか？

池田幸恵：少しでも家計の負担が減れば、その分を老後の備えとかに回せますし。子どもたちも大きくなってきたので、これからは夫婦の生活のことを考えないといけないですから。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

池田幸恵：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

池田幸恵：あまり驚かないですね。ゼロって言ってもそう簡単にはいかないだろうなとは思っていたので。農業でも補助金の話が出て、実際には全額出なかったりするので、そういうものだと思って見えています。

M：1%になったとしたら評価しますか？

池田幸恵：評価します。下がることは良いことだと思います。

M：0にできない理由について知りたいですか？

池田幸恵：知りたいです。なぜゼロにできないのかは気になっていました。

M：なぜ1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

池田幸恵：財政の問題かと思っていましたが、正確にはわかりません。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約1年かかるためです。0%だと1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

池田幸恵：スーパーのレジを変えないといけないんですね。それは確かに時間がかかりそうです。農業の機械を入れ替えるのも大変ですし、大きなシステムを変えるのは手間がかかるというのはわかります。1%で半年早く始まるなら、その方が現実的ですね。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

池田幸恵：そうですね。早く始まった方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

池田幸恵：早く決めてほしいですね。ゆっくりされてもという感じはします。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

池田幸恵：食料品が8%で他が10%というのは知っています。農家の夫から聞くこともあって、農業の資材や機械には消費税がかかるのに、売る野菜の値段に消費税が乗せにくいという話を聞いたことがあります。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

池田幸恵：子どもが大きくなったので食費は以前ほどはかかっていませんが、物価が上がっているのも同じものを買っても前より高くなっています。消費税が1%でも下がれば、少し違いますね。

M：その情報はどこから？

池田幸恵：スーパーに行った時に感じますね。あとニュースでも物価の話は見ます。

M：何か実感として感じているものはありますか？

池田幸恵：野菜の値段は夫の農業で作っているものは直接わかりますが、買うものは高くなっているのを感じます。夫も「肥料が高い、燃料が高い」と言っていて、農家の方からも大変だというのによくわかります。

M：それについてはどう思いますか？

池田幸恵：消費税が少し下がれば助かりますが、農業の費用の方が今は大きな問題だと感じています。ただ今日は家計の食費の話ですね。食費に関しては1%でも下がれば、老後の蓄えに少し回せます。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

池田幸恵：就任前は女性の総理というイメージでした。農村の地域では話題になっていましたね。消費税ゼロの公約は聞いていましたが、「本当にそうなるのかな」と半信半疑でした。1%案になったのは「やっぱりそうなるか」という感じです。

M：農家の奥様という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

池田幸恵：農業の支援が続くかどうか気になります。食料品の消費税が下がることは家計として助かりますが、農業の肥料代や燃料代の補助がどうなるかの方が、夫にとっては切実な問題なので。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

池田幸恵：生活者のことを考えてくれているのは伝わります。今日話を聞いて、1%案の理由もわかりました。早く決めてほしいというのが正直な気持ちです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

池田幸恵：「食料品の1%案は良いと思います。早く決めて実施してください。農業の支援も忘れないでください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

池田幸恵：家計として食費が下がれば助かりますし、農家の立場からも食料品の生産を続けるためには農業の支援が必要だと感じているので。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

池田幸恵：します。夫は「食費が下がるのは助かるけど、農業の補助の方が大事だ」と言っています。農家の方から見ると、消費税よりも肥料・燃料の補助の話の方が大きいみたいです。

M：今日話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

池田幸恵：「1%案の理由はわかった、早く決めてほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

池田幸恵：レジシステムの理由を聞いて、なるほどそういうことかと思いました。農業でも機械やシステムを変えるのは大変なので、よくわかります。1%でも早く始まった方が家計として助かります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

池田幸恵：農家の妻として食料品の生産に関わっている立場から見ると、食費が下がることは消費者として嬉しいですが、生産者が大変な中で作っているということも知ってほしいなと思います。消費税の話と合わせて、農業を続けられる環境も整えてほしいです。

M：ありがとうございました。